

学科	カリキュラム変更	低学年次教育の改善						動機付教育	創成型教育	JABEE(I)	FD	留年対策 (2年/3年)	資格教育等(課外 教育を含む)	備考
		少人数ゼミ	情報教育	外国語教育 (スキル科目)	教養教育	キャリア教育	基礎科目充実							
電子情報	H16新カリ実施。 電子情報技術基礎習得。 資格対策授業。 少人数創成型科目。 アドバンスコース。 (JABEE意識)	数理能力を養う目的で、 独自テキストを作成し、 従来より実施。 新カリでも継続する。 1年前期 「電子情報もの作り入門」 3年後期「電子情報創 成実験」 1年前期「基礎数理セミ ナー」 導入教育	MOUS、習熟度別クラス、 初級シアド、基本情報処 理技術者等の資格と授業と の関連を重視。 1年次に導入する動機付け 教育の中でCプログラミング を行う。 「コンピュータリテラシー」必修	英語重視。 科目数6→10 外国語8単位中 6単位選択必修	H15 入学生から開 講科目簡素化。 人文科目17→11	H15 導入(共通) 「進路設計」(2) 「就業実習」(3) 「日本語表現」(3)	数学と物理については習熟 度クラス編成を行う。 専門の基礎科目は実験をリ ンクさせて、基本事項の理 解度を増加させる。	1年前期の実験科目で動 機付け教育を導入。 あわせて、Cによるプロ grammingを行う。	1年次と3年次に創成 型の実験を導入。 少人数ロボット組立	短期的に申請に到達す るのは困難。 しかし、H16からの新カ リではJABEEも意識し たいいくつかの科目をスタ ートさせる。 申請予定。	FD委員会設置	“わかる”教育を目指 して実験テーマの見 直しや、テキストの作 成を行っている。 工学部1年次留年制 度 H16年度後期より三 者面談実施	MOUS: 情報技術資格Ⅰ、 初級シアド: 情報技術資格Ⅱ、 基本情報処理技術 者: 情報技術資格Ⅲ、 の授業で対応。 第1級陸上特殊無線 技士、陸上無線技術 士に課外講座を实 施。	
機 能 材 料	H17 生命環境科学科 設置予定。 生物系充実により、化 学系との複合領域で ある環境系重視へ	検討中	現行「コンピュータリテラシー 」 「コンピュータ言語Ⅰ・Ⅱ」 * 現行の「科学情報処理」と 新設の「環境と情報ネット ワーク」は3年次開講。	英語重視。 科目数6→10 外国語8単位中 6単位選択必修	H15 入学生から開 講科目簡素化。 人文科目17→11	H15 導入(共通) 「進路設計」(2) 「就業実習」(3) 「日本語表現」(3)	現行 到達度・履修歴別コース実施 (選択) 「基礎数学」「基礎物理学」 「基礎化学」 新設 到達度・履修歴別コース実施 (選択)「基礎生物学」 「基礎数学」「基礎化学」は継 続	現行 「材料科学」「機能材料概 論」「材料科学Ⅲ」「材料 化学基礎実験」 新設 「生命環境化学セミナー」 「生命環境化学概論」 「環境物質科学Ⅲ」 「環境物質科学基礎 実験」 (2科目とも名称変更)	現行 「材料科学Ⅲ」 「材料科学基礎実験」 実験の計画から成果 の発表まで2科目連 携で行っている。 新設 「環境物質科学Ⅲ」 「環境物質科学基礎 実験」 (2科目とも名称変更)	申請予定。 1年前期「工業技術史」 3年前期 「生産技術倫理」 4年前期「技術英語」 JABEEコース検討中	FD委員会設置	講義担当者と学年担 任と学科会議が密に 連絡を取り合っ ている。 工学部1年次留年制 度	環境化学、環境化学 演習の授業で公害防 止管理者に対応。 時間外講座：危険物 取扱者、バイオ技術 認定にも対応。	
知 能 機 械	H16 年度新カリ実施。 知能機械設計コース 知能機械創成コース (H18 年度 JABEE 申請予定)	実験実習科目で個人指 導実施。 1年次前期 「数学基礎演習」 「物理基礎演習」 達成度別クラス	1年次「コンピュータリテラシー」 「機械制御言語Ⅰ及 び演習」 2年次「機械制御言語Ⅱ及 び演習」 及びノートパソコン使用科目の 明示(1~3年次、各期1科 目以上)	英語重視。 科目数6→10 外国語8単位中 6単位選択必修	H15 入学生から開 講科目簡素化。 人文科目17→11	H15 導入(共通) 「進路設計」(2) 「就業実習」(3) 「日本語表現」(3)	H16年度から 1年前期「数学基礎演習」 「物理基礎演習」 1年後期に週2時間科目を 新設。 「解析Ⅰ及び演習」 「物理Ⅰ及び演習」	H16年度から 1年前期 「ものづくり基礎実習」 「ものづくり技術と科学技 術表現法」 「生産技術史」	H16年度から 1年前期 「ものづくり技術と科 学技術表現法」 2年前期 「創造性セミナー」	H18年度申請を目標と し、H16年度にそのた めのカリキュラムをスタート させる。 「英語プレゼンテーションⅠ、 Ⅱ」(3、4年次) 「技術者倫理」(4年次) 「確率と統計」(4年次) 「生産技術史」(1年次)	H16年度中に ・外部評価委員会立ち上 げ ・オフィスアワー新設(実施) ・学科内教育評価システ ム(教員表彰制度)新設 ・教育改善WG立ち上げ (実施)	学科内に多欠席学生 に対する「きつかけ作 り教育」を行う仕組 みを作る。 (H16年度から)	CAD利用者技術試験 2級合格テクニック夏 期講習会実施中(H1 5年度から) H16年度から技能検 定「機械加工3級旋盤 実技試験」の為の講 習会実施中。	
電 気	H15 新カリ実施	1年前期 「電気工学概論(1/2)」で 少人数に分けて工作授 業。 導入教育	スキル2単位 専門14単位 授業で基本情報処理技術者 に対応。 e-learning	英語重視 科目数6→10 外国語8単位中 6単位選択必修	H15 入学生から開 講科目簡素化。 人文科目17→11	H15 導入(共通) 「進路設計」(2) 「就業実習」(3) 「日本語表現」(3)	H15 開始 1年前期「数学基礎演習A、 B、C」1年前期「物理学基礎 演習A、B」で、集中的に基 礎力を涵養。 導入教育	H15 開始 1年前期 「電気工学概論(1/2)」で 学科教員、OBによるオ ムニバス講義を実施 導 入教育	1年前期 「電気工学概論(1/2)」 の工作授業、物理学 実験の一部、電気基 礎実験の一部で創成 型教育に対応。	学科内のJABEE検討小 委員会検討中。JABEE 資料保管場所は A 棟 6 階研究室 8、研究実験 室 8。	検討中 教育改善委員会設置予 定 H16 電気基礎学実験で 講義と実験の連携	学科独自の学生指導 要録作成。 後期は学科で出欠調 査。 工学部1年次留年制 度	H15 開始 実験科目4科目 (14単位) 基本情報技術者: 「情報処理基礎演習」	
情 報	H16 新カリ実施。 コンピュータ工学コース コンピュータ科学コース (JABEE視野)	1年前期 「情報基礎ゼミナール」に よる導入教育	コンピュータリテラシー (クラス1/2) 3年通年:少人数による情報 工学実験Ⅲ・Ⅳ	英語重視 科目数6→10 外国語8単位中 4単位選択必修	H16 人文科目17→13 「生涯スポーツ学」 廃止	H16 導入(共通) 「進路設計」(2) 「就業実習」(3) 「日本語表現」(3)	数学補習を実施	3年前期 「情報工学特別講義」	2年通年 「情報工学実験Ⅰ・ Ⅱ」 パソコン組立・ロボット 制御	JABEEを意識した新カリ をH16よりスタート。将来 的には申請を予定してい る。 4年前期 「英語プレゼンテーション」 「情報技術者倫理」	FD委員会設置	クラス担任を中心に 多欠席者に対して、 指導を行っている。		
情 報 通 信	H16 新カリ実施。 ソフトウェア教育を強 化し、ハードウェア教 育とのバランスを考 慮。	1年前・後期 「基礎ゼミナールⅠ」 「基礎ゼミナールⅡ」 導入教育	情報処理科目充実。 多くの講義で、学生にノート パソコンを使用させている。	英語重視 科目数6→10 外国語8単位中 4単位選択必修	H16 人文科目17→13 「生涯スポーツ学」 廃止	H16 導入(共通) 「進路設計」(2) 「就業実習」(3) 「日本語表現」(3)	1年後期 「基礎ゼミナールⅡ」 (数学補習)	1年前期 「基礎ゼミナールⅠ」 1年後期 「基礎ゼミナールⅡ」		JABEE申請を目指して準 備・計画中。	FD委員会設置	多欠席の学生に対し て、早期の指導を学 科内できめ細かく実 施している。 ゼミナールで、学生が 教員に気軽に質問し やすい環境を作っ ている。	新カリでは、資格取得 を視野に入れた授業 科目構成となっている。 陸上無線技士など多 くの上級資格取得の ための時間外講座を 実施している。	
情 報 シ ス テ ム	H16 新カリ実施。 情報システム設計コース 情報システム技術コース (H18 JABEE申請予 定)	3年前期、 「情報処理基礎実験、シ ステム情報、システム制御」、 3年後期、創成型 「情報処理応用実験」	・専門基礎科目、物理、数学 以外は、すべて情報処理 関連科目。 ・特に、「情報処理基礎」 「情報処理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「同 演習」。 ・「情報処理工学実験」	英語重視 外国語8単位中 4単位選択必修	H16 人文科目17→13 「生涯スポーツ学」 廃止	H16 導入(共通) 「進路設計」(2) 「就業実習」(3) 「日本語表現」(3)	(数学補習) 「情報処理基礎」	2年、3年、4年前期集中 「情報処理特論」、学外 講師による先端技術の 講義。 H16年4月、1年次生に 「専門課程案内」作成 中。	3年後期、選択必修 「システム情報実験」 「システム制御実験」	H18申請予定。 1年「情報技術史」 2年 「情報技術者倫理学」 3年 「プレゼンテーション」 「TECHNICAL Writing」 「Academic listening and speaking」	FD委員会設置	(数学補習) 多くの専門科目で、演 習、小テストを多く行 っている。	基本情報処理は、「計 算機ハードウェアⅠ」と 「計算機ハードウェアⅡ」 の授業で対応。	学科の方向 性に沿った 科目の削減 科目間の内 容の点検
シ ス テ ム マ ネ ジ ム ン ト	H16 名称変更。 メディア関連充実	「システムマネジメントゼ ミナールⅠ」	情報処理科目充実 e-learning 導入	英語重視 科目数6→10 外国語8単位中 4単位選択必修	H16 人文科目17→13 「生涯スポーツ学」 廃止	H16 導入(共通) 「進路設計」(2) 「就業実習」(3) 「日本語表現」(3)	(数学補習)	1年前期 「システムマネジメント基礎」	3年 「システムマネジメント ゼミナールⅡ」		FD研究会設置	必修科目担当やゼミ を中心に欠席者を学 科会議等で連絡し、 対応している。 ①多欠席者のチェック ②保護者への連絡 ③オフィスアワーの設置 ④メーリング・リストの 活用	新カリでは、CG 検定 はコンピュータグラフィ ックス、DTP エキス パートは DTP 演習、 Web クリエータ検定は ユニバーサルデザイ ン等資格取得を視野 に入れた講義内容に なっている。	
社 会 環 境	H17 新カリ実施	「教養ゼミナール」(1年通年) 「ゼミナールⅠ」(2年通年) 「ゼミナールⅡ」(3年通年) 「ゼミナールⅢ」(4年通年)	「コンピュータリテラシーⅠ・Ⅱ」必修	H16 より英会話ソフト 導入 「TOEIC」取得カリキ ュラム	2年次までに修得 可能	「キャリア形成 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」	「社会環境学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」	「人間形成」 「環境基礎演習」	ISO14001		FD委員会設置	多欠席の学生に対し て、ゼミナールで早期 の指導を実施してい る。	英検、TOEIC、簿記 検定	

学科	教育方法改善委員会 (Plan, Action)	教育評価委員会 (check)	JABEE(Ⅱ) (H16 審査員、講習会、 審査会出席等)	オフィスアワー	入学前教育	G. P. A	CAP	表彰制度	授業公開・討論会	学生アンケート 公開・報告会	FD研修会	その他
電 子 情 報	教育改善小委員会(6名) 学科長 教務委員 学生委員	教育評価小委員会 (3名)		H16 年度後期から実 施	H17 年度実施予定	H17 年度より導入			検討中			
機 能 材 料	FD委員会(8名) ・教員間の連携 ・チューター制度	FD委員会と同一 ・学生アンケート検討		H17 年度前期から実 施	H17 年度実施予定	H17 年度より導入				条件付きで公開予定		
知 能 機 械	教育構想 WG(4名) 教育改善 WG(4名) 資料管理 WG(4名) ・教員間の連携 ・ノートパソコンスキル向上策	自己点検評価 WG (3名) (貢献度評価) ・独自学生アンケート(H16 年度前期実施し、 科目単位での総合評価上位3科目決定 し、学科内表彰実施。またアンケート結果 の学生へのフィードバックも実施。 今後、内容を充実させながら継続して半 期毎に実施することに決定)	JABEE 申請に関わる 事務打ち合わせ(1名) JABEE のための技術 者倫理 (1名) JABEE 主催新人審査 員研修会 (1名) 1年生対象 JABEE 啓 蒙講習会(H17.2.23 実 施)	H16 年度前期から実 施	H17年度推薦入学生 から実施。	H17 年度より導入		H16 年度から授業ア ンケートを利用して実 施(ベストティーチャー賞)	検討課題として認識。	学科内教員には全て オープンとした。学生 にもまとめを公開。	H16年度は学科会議 で、優秀講義のレク チャーを実施予定。 H17年度以降の進め 方は、H16年度中に 決定。	JABEE 申請に関連し (1)卒業研究発表の審 査制度及び卒業研究 の評価基準を制定 (2)学習教育目標到達 度評価の為の総合評 価試験制度スタート (3)学習教育目標自己 点検システムの検討開 始(H17.10スタート予定) (4)企業への卒業生評 価アンケート実施
電 気	教育改善委員会 ・独自指導要領作成 ・独自教科書作成(H15 5科目済 H16 7科目作成中)	教育評価委員会		H16 年度後期から実 施	H15 年度より実施	H15 年度より導入	H18 年度以降導入検 討					
情 報	教育改善委員会(4名)	自己点検評価委員会 (3名)	検討中	H16 年度後期から実 施	H17 年度実施予定 (数学)	検討中	検討中	検討中	検討中	検討中	検討中	検討中
情 報 通 信	教育改善委員会(5名)	教育評価委員会 (4名)	電子情報通信学会 「JABEE 研修会」出席 (3名)	H16 年度前期から実 施			H17 年度より導入	H16 年度前期から実 施(ベストティーチャー賞)		一部公開中		
情 報 システム	教育構想 WG(5名) 教育手法研究 WG(5名) 教育改善 WG(5名) 資料管理 WG(2名) ・教員間の連携 ・独自学生アンケート実施と結果検討	自己点検評価 WG (3名) 第三者評価委員会	第 12 回 JABEE 審査 員研修会(日工教)参 加(1名) JABEE 現地審査(審 査員)(1名) 電気学会主催「第1回 JABEE 受審校のため の研修会」出席(1名)	H16 年度 6 月から実 施	H17 年度実施予定							教育改善報告書の提 出を義務づけた
システム マネジ メント	FD 研究会(3名) ・電子シラバス化 ・電子掲示板	教育評価委員会WG メリット・デメリットを検討しながら、慎重に対処		H16 年 7 月から実施		H17 年度より導入			担当委員(2名)	担当委員(2名)		
社 会 環 境	FD 教養改革改善委員会(6名)	自己点検評価委員会 (3名)		H17 年度前期から実 施		H13 年度より導入						
人 文 ・ 社 会	教育改善委員会(6名) 人文・保体より2名、工・情より4名		—			—	—					
外国語			—		具体策検討中	—	—					

資料3 専攻別志願者、合格者、入学者の推移（修士課程）

電子工学専攻

年 度	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	在籍者
平成 5('93)	8	9(1)	9(1)	9(1)	8	8
平成 6('94)	8	15(1)	15(1)	14(1)	13(1)	21(1)
平成 7('95)	8	11(1)	11(1)	11(1)	6(1)	20(2)
平成 8('96)	8	8(3)	6(2)	5(1)	5(1)	11(2)
平成 9('97)	8	10(2) [1]	10(2) [1]	10(2) [1]	9(2) [1]	14(3) [1]
平成10('98)	8	9	8	8	7	16(2) [1]
平成11('99)	8	7	6	4	4	11(1)
平成12('00)	8	7	7	6	6	10
平成13('01)	8	10 [2]	10 [2]	10 [2]	10 [2]	16 [2]
平成14('02)	8	7	6	4	4	15 [2]
平成15('03)	8	6	6	5	4	9 [1]
平成16('04)	8	7	6	5	4	9

機能材料工学専攻（平成13年度まで、電子材料工学専攻）

年 度	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	在籍者
平成 5('93)	8	7(2)	7(2)	7(2)	7(2)	7(2)
平成 6('94)	8	8	8	8	7	14(2)
平成 7('95)	8	13	12	12	11	18
平成 8('96)	8	9	9	8	8	19
平成 9('97)	8	17(1) [3]	13(1) [3]	11(1) [3]	9(1) [2]	16(1) [2]
平成10('98)	8	14 [1]	13 [1]	10 [1]	10 [1]	19(1) [3]
平成11('99)	8	13 [1]	13 [1]	8 [1]	8 [1]	18 [2]
平成12('00)	8	17 [1]	15	8	8	17 [1]
平成13('01)	8	5 [1]	4	4	4	12
平成14('02)	8	10 [1]	9	6	6	10
平成15('03)	8	10 [1]	10	6	6	13 [1]
平成16('04)	8	11 [2]	10 [2]	9 [2]	9 [2]	15 [3]

知能機械工学専攻（平成14年度まで、電子機械工学専攻）

年 度	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	在籍者
平成 5('93)	8	7(1) [1]	7(1) [1]	7(1) [1]	7(1) [1]	7(1) [1]
平成 6('94)	8	14(2)	14(2)	14(2)	14(2)	21(3) [1]
平成 7('95)	8	7	7	7	7	21(2)
平成 8('96)	8	9(2)	9(2)	6(1)	6(1)	13(1)
平成 9('97)	8	6(2)	5(1)	5(1)	3(1)	9(2)
平成10('98)	8	6(1) [1]	6(1) [1]	6(1) [1]	6(1) [1]	8(2) [1]
平成11('99)	8	12 [1]	12 [1]	12 [1]	11	17(1) [1]
平成12('00)	8	15(2) [1]	15(2) [1]	15(2) [1]	15(2) [1]	26(2) [1]
平成13('01)	8	19	18	18	16	30(2) [1]
平成14('02)	8	10(2)	10(2)	10(2)	10(2)	26(2)
平成15('03)	8	14	14	13	13	23(2)
平成16('04)	8	18(1)	16(1)	13(1)	12(1)	25(1)

電気工学専攻

年 度	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	在籍者
平成 5('93)	8	4	4	4	4	4
平成 6('94)	8	16	15	13	12	16
平成 7('95)	8	11(2)	11(2)	8(2)	7(1)	19(1)
平成 8('96)	8	3	3	3	3	10(1)
平成 9('97)	8	12	12	12	11	14
平成10('98)	8	6(1)	5(1)	5(1)	5(1)	16(1)
平成11('99)	8	9	9	8	8	13(1)
平成12('00)	8	9 [1]	9 [1]	9 [1]	9 [1]	17 [1]
平成13('01)	8	10(2) [1]	9(2) [1]	8(2) [1]	7(2) [1]	15(2) [2]
平成14('02)	8	8(1) [1]	8(1) [1]	7(1) [1]	7(1) [1]	14(3) [2]
平成15('03)	8	8	7	6	6	14(1) [1]
平成16('04)	8	6	6	5	5	12

情報工学専攻

年 度	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	在籍者
平成 6('94)	10	19(6)	19(6)	18(5)	17(4)	17(4)
平成 7('95)	10	22(2) [2]	21(2) [2]	19(2) [2]	17(1) [1]	34(5) [1]
平成 8('96)	10	21(4) [3]	19(4) [3]	19(4) [3]	18(4) [3]	35(5) [4]
平成 9('97)	10	22(1)	22(1)	19(1)	19(1)	35(5) [3]
平成10('98)	10	11(1) <2>	11(1) <2>	11(1) <2>	11(1) <2>	30(2) <2>
平成11('99)	10	18(2) <2>	18(2) <2>	18(2) <2>	17(2) <2>	28(3) <4>
平成12('00)	10	27(2) [1]	26(2) [1]	26(2) [1]	24(1) [1]	41(3) [1] <2>
平成13('01)	10	27(2)	26(2)	25(2)	24(1)	50(3) [1]
平成14('02)	10	18(1) [1]	18(1) [1]	18(1) [1]	18(1)	44(3) [1]
平成15('03)	10	29(2) [3]	29(2) [3]	29(2) [3]	26(1) [3]	46(2) [4]
平成16('04)	10	16	15	13	13	40(1) [3]

情報通信工学専攻

年 度	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	在籍者
平成16('04)	8	11(1) [2] <1>	11(1) [2] <1>	9(1) [2] <1>	8 [2] <1>	8 [2] <1>

管理工学専攻

年 度	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	在籍者
平成 7('95)	8	11(3) [3]	11(3) [3]	11(3) [3]	11(3) [3]	11(3) [3]
平成 8('96)	8	6(2)	6(2)	5(2)	4	14(3) [3]
平成 9('97)	8	13(2)	11(2)	11(2)	9(1)	14(1)
平成10('98)	8	13(3) [1]	13(3) [1]	13(3) [1]	12(3) [1]	21(3) [1]
平成11('99)	8	7	6	6	3	14(3) [1]
平成12('00)	8	12(1) [1]	11(1) [1]	9(1) [1]	9(1) [1]	12(1) [1]
平成13('01)	8	10(3) [2]	8(3) [2]	7(2) [2]	7(2) [2]	15(1) [3]
平成14('02)	8	20(1)	18(1)	18(1)	17(1)	24(3) [2]
平成15('03)	8	11(1)	10(1)	10(1)	10(1)	27(2)

管理工学専攻

年 度	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	在籍者
平成16(’04)	8	12(4)[4]	12(4)[4]	10(3)[4]	8(3)[2]	19(3)[2]

資料4 専攻別志願者、合格者、入学者の推移（博士後期課程）

物質生産システム工学専攻

年 度	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	在籍者
平成11(’99)	2	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)
平成12(’00)	2	1	1	1	1	2(1)
平成13(’01)	2	0	0	0	0	2(1)
平成14(’02)	2	3 <2>	3 <2>	3 <2>	3 <2>	4 <2>
平成15(’03)	2	1	1	1	1	4 <2>
平成16(’04)	2	0	0	0	0	4 <2>

知能情報システム工学専攻

年 度	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	在籍者
平成11(’99)	2	4(2)[1] <1>	4(2)[1] <1>	4(2)[1] <1>	4(2)[1] <1>	4(2)[1] <1>
平成12(’00)	2	3 <1>	3 <1>	3 <1>	3 <1>	7(2)[1] <2>
平成13(’01)	2	1 <1>	1 <1>	1 <1>	1 <1>	8(2)[1] <2>
平成14(’02)	2	2(1)[2]	2(1)[2]	2(1)[2]	2(1)	6(3)[3] <1>
平成15(’03)	2	4(1)	4(1)	4(1)	4(1)	8(3)[3] <1>
平成16(’04)	2	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)	9(3)[2] <1>

資料5 修士課程における収容定員に対する在籍学生数の推移（専攻別）

電子工学専攻

年度(平成) (西暦)	5 1993	6 1994	7 1995	8 1996	9 1997	10 1998	11 1999	12 2000	13 2001	14 2002	15 2003	16 2004
収容定員	8	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
在籍者数	8	21	20	11	14	16	11	10	16	15	9	9
社会人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留学生数	0	1	2	2	3	2	1	0	0	0	0	0
退学者	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	-
休学者	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
比 率	1.00	1.31	1.25	0.68	0.87	1.00	0.68	0.62	1.00	0.93	0.56	0.56

機能材料工学専攻

年度(平成)	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
(西暦)	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
収容定員	8	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
在籍者数	7	14	18	19	16	19	18	17	12	10	13	15
社会人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留学生数	2	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
退学者	0	0	1	3	0	1	2	2	2	1	0	-
休学者	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
比率	0.87	0.87	1.12	1.18	1.00	1.18	1.12	1.06	0.75	0.62	0.81	0.93

知能機械工学専攻

年度(平成)	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
(西暦)	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
収容定員	8	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
在籍者数	7	21	21	13	9	8	17	26	30	26	23	25
社会人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留学生数	1	3	2	1	2	2	1	2	2	2	2	1
退学者	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	-
休学者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
比率	0.87	1.31	1.31	0.81	0.56	0.50	1.06	1.62	1.87	1.62	1.43	1.56

電気工学専攻

年度(平成)	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
(西暦)	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
収容定員	8	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
在籍者数	4	16	19	10	14	16	13	17	15	14	14	12
社会人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留学生数	0	0	1	1	0	1	1	0	2	3	1	0
退学者	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	-
休学者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
比率	0.50	1.00	1.18	0.62	0.87	1.00	0.81	1.06	0.93	0.87	0.87	0.75

情報工学専攻

年度(平成)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
(西暦)	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
収容定員	10	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
在籍者数	17	34	35	35	30	28	41	50	44	46	40
社会人数	0	0	0	0	2	4	2	0	0	0	0
留学生数	4	5	5	5	2	3	3	3	3	2	1
退学者	0	0	2	1	3	0	1	1	3	3	-
休学者	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
比 率	1.70	1.70	1.75	1.75	1.50	1.40	2.05	2.50	2.20	2.30	2.20

情報通信工学専攻

年度(平成)	16
(西暦)	2004
収容定員	8
在籍者数	8
社会人数	1
留学生数	0
退学者	-
休学者	1
比 率	1.00

管理工学専攻

年度(平成)	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
(西暦)	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
収容定員	8	16	16	16	16	16	16	16	16	16
在籍者数	11	14	14	21	14	12	15	24	27	19
社会人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留学生数	3	3	1	3	3	1	1	3	2	4
退学者	1	0	1	2	0	2	0	0	1	-
休学者	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
比 率	1.37	0.87	0.87	1.31	0.87	0.75	0.93	1.50	1.68	1.18

資料6 博士後期課程における収容定員に対する在籍学生数の推移（専攻別）

物質生産システム工学専攻

年度(平成)	11	12	13	14	15	16
(西暦)	1999	2000	2001	2002	2003	2004
収容定員	2	4	6	6	6	6
在籍者数	1	2	2	4	4	4
社会人数	0	0	0	2	2	2
留学生数	1	1	1	0	0	0
退学者	0	0	0	0	0	-
休学者	0	0	0	0	0	0
比率	0.50	0.50	0.33	0.66	0.66	0.66

年度(平成)	11	12	13	14	15	16
(西暦)	1999	2000	2001	2002	2003	2004
収容定員	2	4	6	6	6	6
在籍者数	4	7	8	6	8	9
社会人数	1	2	2	1	1	1
留学生数	2	2	2	3	3	3
退学者	0	0	1	0	1	-
休学者	0	1	1	0	2	1
比率	2.00	1.75	1.33	1.00	1.33	1.50

資料 7

福岡工業大学研究業績評価基準

- 1 この基準は、福岡工業大学大学学則第 1 条の 2 並びに福岡工業大学大学院 学則第 1 条の規定により専任教員の研究業績の点検・評価を実施することを目的とする。
- 2 研究業績評価の項目は、研究業績評価加点項目表（以下「項目表」という。）による。
- 3 研究業績評価の対象期間は、1 年度間（4 月 1 日～3 月 31 日）とし、以後毎年度実施するものとする。
- 4 前 3 の定めに関わらず第 1 回の研究業績評価については、着手中の第 4 回点検・評価に間に合うように、平成 11 年度から平成 15 年度の 5 ヶ年度を対象として実施するものとする。
- 5 この基準の改廃は、教授会の議による。

附 則

(1) この基準は、平成 16 年 10 月 20 日から施行する。ただし、第 4 回点検・評価報告書の発行日をもって、4 の全文を削除して、5 を 4 に繰り上げて施行するものとする。

研究業績評価加点項目表

1. 学術論文関連項目

- | | |
|---------------------|------|
| (1) 学術著書 1 編 | 15 点 |
| (2) 教科書 1 編 | 6 点 |
| (3) 査読付論文 1 編 | 15 点 |
| (4) 国際学会論文 1 編 | 9 点 |
| (5) 紀要・研究会資料解説等 1 編 | 6 点 |
| (6) 国内学会発表 1 編 | 3 点 |

2. 外部資金関連項目

(1) 科学研究費補助金 1 件

(1)	採択補助金額 (当該年度ごと)	①代表者	②その他
	100 万円未満	12 点	4 点
	200 万円未満	15 点	5 点
	300 万円未満	18 点	6 点
	500 万円未満	24 点	8 点
	1000 万円未満	30 点	10 点
	1000 万円以上	60 点	20 点
	申請	3 点	1 点

(2) その他補助金1件

(2)	採択補助金額 (当該年度ごと)	①代表者	②その他
	100万円未満	6点	2点
	200万円未満	12点	4点
	300万円未満	15点	5点
	500万円未満	18点	6点
	1000万円未満	24点	8点
	1000万円以上	30点	10点
	申請	2点	1点

(3) 共同研究1件

(4) 受託研究1件

(5) 奨学寄付金1件

(3)	①代表者	6点
(4)		
(5)	②その他	2点

3. その他の業績項目

(1) 特許出願1件	①代表者	3点
	①その他	1点
(2) 特許審査パス1件	①代表者	12点
	②その他	3点
(3) 著作権1件		12点
(4) 学会賞等の受賞1件		12点
(5) 実用新案パス1件		6点

(備考)

- 外部資金関連項目の(1)及び(2)に関する新規及び継続の補助金の点数は、各年度毎の補助実績金額とする。
- 外部資金関連項目の(1)及び(2)中の採択補助金額の該当点数と申請の点数は加算するものとする。
- その他の業績項目の(1)及び(2)の該当点数は加算するものとする。

資料 8 平成 11 年度～平成 15 年度における教員の研究評価点数表

所属学科	教員名	学術論文関連 合計点	外部資金関連項目 合計点	その他業績項目 合計点
電子情報工学	AU	303	27	0
	BD	285	0	0
	DI	252	0	0
	DS	246	0	0
	DT	219	38	0
	W	192	62	3
	BY	180	0	0
	DW	180	0	0
	A	153	23	12
	DU	102	0	0
	DJ	99	0	0
	CX	51	4	0
	BJ	36	0	0
	CW	36	0	0
	CD	30	0	0
	BC	27	0	0
DK	0	0	0	
機能材料工学	AF	291	48	3
	BO	270	37	8
	T	180	42	0
	N	126	28	0
	DV	96	0	0
	Y	87	35	0
	CA	81	11	0
	CB	78	10	0
	AX	66	0	0
	AY	60	0	0
	CI	45	0	0
	BG	30	18	12
	DM	12	0	0
	CS	0	0	0
知能機械工学	AQ	411	242	99
	CV	327	81	18
	AL	303	63	0
	DZ	252	74	0
	AE	201	119	4
	F	201	33	6
	BB	168	12	0
	BT	138	107	0

所属学科	教員名	学術論文関連 合計点	外部資金関連項 目合計点	その他業績項 目合計点
知能機械工学	CP	111	18	3
	EG	75	24	13
	BS	30	0	0
	EK	24	0	0
	DH	0	0	0
	DR	0	0	0
電気工学	DC	285	0	0
	BZ	198	23	0
	CG	165	65	3
	DX	123	19	0
	G	117	122	12
	R	99	0	0
	AI	96	36	0
	BM	78	6	0
	DL	75	0	0
	AJ	69	0	0
	DB	21	0	0
	CH	9	0	0
	BN	6	0	0
	EA	6	0	0
情報工学	S	450	76	0
	P	444	127	0
	BU	219	63	0
	AC	210	53	0
	BE	201	10	720
	X	189	31	103692
	CZ	177	54	0
	BL	168	5	0
	CY	108	18	0
	BF	105	43	0
	BK	90	14	0
	CF	90	31	86
	M	51	4	75
	DA	48	0	0
	CR	42	0	0
	CQ	39	6	0
CE	0	0	0	
情報通信工学	Q	834	122	72
	BR	477	16	42
	CO	330	51	0

所属学科	教員名	学術論文関連 合計点	外部資金関連項 目合計点	その他業績項 目合計点
情報通信工学	I	330	0	24
	AK	291	70	0
	DQ	273	92	0
	B	270	0	24
	DG	204	0	0
	AP	189	1	0
	O	159	96	0
	CT	129	3	0
	AT	48	30	0
	V	42	0	0
	CU	39	6	0
情報システム工学	EE	222	72	36
	E	90	0	0
	L	90	54	3
	BX	78	0	3
	BW	75	0	0
	DO	66	0	0
	CL	63	50	0
	DY	51	0	0
	CM	36	60	0
	CN	33	7	0
	EF	6	0	0
	DP	3	0	3
システムマネジメント	H	423	0	0
	AZ	276	68	3
	AV	213	5	12
	EC	123	0	0
	BP	93	5	12
	DN	90	0	0
	AM	66	0	0
	BH	57	0	0
	Z	48	24	0
	CC	18	0	0
社会環境	AN	306	141	0
	AD	192	0	0
	J	177	76	2
	EI	129	0	0
	U	126	27	0
	AH	96	48	0
	AR	96	32	0

所属学科	教員名	学術論文関連 合計点	外部資金関連項 目合計点	その他業績項 目合計点
社会環境	DF	90	8	0
	EB	81	61	0
	AO	75	31	0
	AS	72	0	0
	C	63	7	0
	AA	60	0	0
	DE	57	0	0
	AG	54	6	0
	K	54	12	0
	AB	36	12	0
	D	30	13	0
	BQ	27	0	0
	EH	27	0	0
	CK	18	0	0
	BI	15	1	0
	AW	6	0	0
	BA	6	0	0
	BV	6	0	0
	CJ	0	0	0
	ED	0	0	0
ZZ	—	—	—	

注 ー：未提出

資料 9

①プロジェクト研究に採択された課題と予算額

平成 11 年度

- ・研究課題 : 「カオス回路を用いた多重非同期通信による並列分散画像処理と遠隔医療処理の提案とその評価」
予算額 : 4,997,900円
研究代表者 : 伊藤真教授
共同研究者 : 西田茂人教授、山元規靖講師
- ・研究課題 : 「都市部における移動体通信のための電磁波伝搬推定法に関する研究」
予算額 : 3,072,000円
研究代表者 : 前田洋助教授
共同研究者 : 岩重二郎教授、内田一徳教授、松永利明教授、野田武昭助教授、佐賀信裕教授
- ・研究課題 : 「ロボットサッカーに関する研究」
予算額 : 2,600,000円
研究代表者 : 田中卓史教授
共同研究者 : 石井優教授、谷口泰敏講師、白川弘明助教授

平成 12 年度

- ・研究課題 : 「ロボットサッカーに関する研究」
予算額 : 1,850,000円
研究代表者 : 田中卓史教授
共同研究者 : 石井優教授、谷口泰敏講師、白川弘明助教授
- ・研究課題 : 「カオス回路を用いた多重非同期通信による並列分散画像処理と遠隔医療処理の提案とその評価」
予算額 : 2,217,000円
研究代表者 : 山元規靖講師
共同研究者 : 伊藤真教授、小田誠雄助教授、西田茂人教授

②特別研究に採択された課題と研究経費

平成 11 年度

- ・なし

平成 12 年度

- ・研究課題 : 情報メディア変換システムの開発
研究者 : 管理情報工学科 横田将生教授、研究経費 : 7,500,000円
- ・研究課題 : モーション・キャプチャー装置を用いた動作研究
研究者 : 管理情報工学科 赤木文男教授、研究経費 : 11,060,000円

平成 13 年度

- ・なし

平成 14 年度

- ・研究課題 : ローカルガバナンスの視点から見た自治体環境行政の評価に関する研究
研究者 : 社会環境学科 金川幸司助教授、研究経費 : 2,260,000円
- ・研究課題 : 現代若者の理想の人間像に関する研究
－「九州男児」のイメージと人生観・価値観からの分析－

- 研究者 : 社会環境学科 石井久雄講師、研究経費 : 1,360,000 円
- ・研究課題 : レーザ誘起衝撃波の医療応用に関する基礎研究
- 研究者 : 情報通信工学科 前田洋助教授、研究経費 : 4,810,000 円
- ・研究課題 : 「地域情報の共有と土着性」の研究
- 研究者 : 社会環境学科 宗像哲男助教授、研究経費 : 2,120,000 円

平成 15 年度

- ・研究課題 : 循環型社会形成実現にむけてのバイオマス再生資源化における環境ガバナンスの研究－食品リサイクルからみた地域循環システムの形成に関するケーススタディー
- 研究者 : 社会環境学科 野上健治教授、研究経費 : 4,471,950 円
- ・研究課題 : 感性情報に基づく音響情報の適切な配信を目的とした音響品質管理のための物理指標の検討
- 研究者 : 情報工学科 福島学助教授、研究経費 : 4,835,000 円
- ・研究課題 : DVD 教材自作による大学授業の改善に関する実践的研究
- 研究者 : 社会環境学科 狩俣恵常教授、研究経費 : 423,940 円
- ・研究課題 : アスペクト指向プログラムの依存性理論とその応用に関する研究
- 研究者 : 情報工学科 趙建軍助教授、研究経費 : 5,550,000 円

平成 16 年度

- ・研究課題 : 情報通信ネットワークのための通信品質 (QoS) 経路制御に関する研究
- 研究者 : 情報通信工学科 巴川 利光助教授、研究経費 : 3,500,000 円
- ・研究課題 : 人間・ロボット協調系における環境理解およびコミュニケーションの統合的研究
- 研究者 : システムマネジメント学科 横田将生教授、研究経費 : 3,350,000 円
- ・研究課題 : RFID タグの電波伝搬特性の解明とその評価
- 研究者 : 情報通信工学科 若原俊彦教授、研究経費 : 5,000,000 円
- ・研究課題 : アスペクト指向プログラム依存性理論に基づく統合的ソフトウェア開発支援環境の構築
- 研究者 : 情報工学科 趙建軍助教授、研究経費 : 3,150,000 円

資料 10 平成 11 年度情報科学研究所研究員課題(プロジェクト・特定研究含む)

(単位 千円)

部 門	研究代表者・職位	研 究 課 題	研究費
知能メディア	荒屋 真二 教授	・Web 対応 3 次元実のための LOD モデルに関する研究	1,050
	田中 卓史 教授	・電子回路設計支援システム	830
	山崎 秀樹 教授	・集団非線形振動子系としての脳波アルファリズム	1,090
	山元 規靖 講師	・並列分散計算システムを用いた Virtual Reality 空間によるインターフェースに関する研究	840
システム科学	柴田 望洋 助教授	・多重化された計器をもつシステムの異常診断に関する研究	730
	庄司 文啓 教授	・むだ時間システム低次元化	970
	徐 海燕 助教授	・処理単位ワークフローによる協同作業支援に関する研究	1,470
	田中 秀司 講師	・無転位シリコン中ニッケルの位置交換におよぼすニッケル析出物の影響	1,260
	谷口 泰敏 講師	任意の基数での演算が可能なアナログ回路方式を用いた多値演算回路	770
	前田 洋 助教授	・都市部における移動体通信のための電磁波伝搬推定法に関する研究	3,072
	伊藤 眞 教授	・カオス回路を用いた多重非同期通信による並列分散画像処理と遠隔医療処理の提案とその評価	4,997
情報応用	石井 優 教授	・4 脚型移動ロボットの視覚処理に関する研究	830
	浜辺 隆二 教授	・ホームネットワークのホームヘルスケアへの応用に関する研究	1,200
	松尾 敬二 助教授	・インターネットを使った専門教育教材の開発	660
	田中 卓史 教授	・サッカーロボットに関する研究	2,600
研究企画	西原 賢 教授	・有限無限次元複素解析学の総合的研究	500

資料 11 平成 12 年度情報科学研究所研究員課題(プロジェクト・特別研究含む)

(単位 千円)

部 門	研究代表者・職位	研 究 課 題	研究費
知能メディア	中川 貴 教授	・見えのモードと色彩知覚の同化効果	1,340
	平岡 茂夫 講師 (短期大学)	・マルチメディアコンテンツにおける視覚特性の活用	1,440
	熊谷 博夫 教授	・簡易脳波センサーを用いた脳波解析	1,210
	小野 俊彦 教授	・遺伝的アルゴリズムの高度化の研究	1,280
	横田 将生 教授	・情報メディア変換システムの開発	7,500
システム科学	趙 建軍 助教授	・分散プログラムにおける依存性理論とその応用に関する基礎的研究	1,350
	曾 超 助教授 (短期大学)	・情報技術を活用した総合的な教育支援システムの研究開発	1,340
	庄司 文啓 教授	・大規模系の低次元化における初期設定について	1,260
	山元 規靖 講師	・カオス回路を用いた多重非同期通信による並列分散画像処理と遠隔医療処理の提案とその評価	2,217
部 門	研究代表者・職位	研 究 課 題	研究費
情報応用	福島 学 講師	・マルチメディアコンテンツ作成・活用を目的とした教育音響に関する研究	1,500
	梶原 寿了 教授	・電力系統現象の可視化に関する研究	1,480
	田中 卓史 教授	・サッカーロボットに関する研究	1,850
	赤木 文男 教授	・モーションキャプチャー装置を用いた動作研究	11,060

資料 12 平成 13 年度情報科学研究所研究員課題(プロジェクト・特別研究含む)

(単位 千円)

部 門	研究代表者・職位	研 究 課 題	研究費
知能メディア	山口 明宏 講師	・カオスの神経振動子を用いた動的情報コーディングに関する研究	1,230
	浜辺 隆二 教授	・学習動きベクトル量子化による画像の圧縮と伝送に関する研究	1,290
	西田 茂人 教授	・安静閉眼時背景脳波の判読所見を反映した脳波モデルの構成	1,410
	石井 優 教授	・インターネットを用いた移動ロボットの遠隔操作に関する研究	1,170
システム科学	谷口 泰敏 講師	・多値論理演算回路の動作特性の解析	810
	渡辺 仰基 講師	・異方性グレーティングの散乱問題に対する解析理論の開発	1,350
	鶴岡 久 教授	・共新化遺伝的アルゴリズムとその利用	990
情報応用	行田 尚義 教授	・色彩知覚の総合的研究(特に高齢者の色彩知覚に研究に利する)	1,110

	梶原 寿了 教授	・電気工学基礎科目におけるインターネットを利用した教育システムの開発	930
	山本 貴弘 講師	・リモートセンシング画像の重ね合わせ手法に関する研究	870
	福島 学 講師	・教室における高明瞭度音響信号伝送に関する研究	1,050

資料 13 平成 14 年度情報科学研究所研究員課題(プロジェクト・特別研究含む)

(単位 千円)

部 門	研究代表者・職位	研究 課 題	研究費
知能メディア	田中 卓史 教授	・見えのモードと色彩知覚の同化効果	1,500
	鶴岡 久 教授	・共進化遺伝的アルゴリズムの強化学習への応用	1,426
	山口 明宏 講師	・カオス的スパイク間隔ダイナミクスの情報構造解析	1,460
システム科学	徐 海燕 助教授	・アプリケーション一貫性情報を用いた並行処理制御に関する研究	929
	渡辺 仰基 講師	・散乱行列伝搬アルゴリズムを用いた電磁波解析法	1,500
情報応用	林 泰三 教授	・EUにおける地球温暖化防止政策の背景	500
	金川 幸司 助教授	・ローカルガバナンスの視点から見た自治体環境行政の評価に関する研究	2,260
	石井 久雄 講師	・現代若者の理想の人間像に関する研究ー「九州男児」のイメージと人生観・価値観からの分析ー	1,360
	前田 洋 助教授	・レーザ誘起衝撃波の医療応用に関する基礎研究	4,810
	宗像 哲男 助教授	・「地域情報の共有と土着性」の研究	2,120

資料 14 平成 15 年度情報科学研究所研究員課題(プロジェクト・特別研究含む)

(単位 千円)

部 門	研究代表者・職位	研究 課 題	研究費
知能メディア	趙 建軍 助教授	・アスペクト指向プログラムの依存性理論とその応用に関する研究	5,550
	横田 将生 教授	・人間・ロボット協調系におけるマルチモーダルコミュニケーションの基礎的研究	1,400
システム科学	パトリック 助教授	・マルチメディア通信を実現するためのネットワーク・トラフィック制御方式およびネットワーク応用に関する研究	1,500
情報応用	野上 健治 教授	・循環型社会形成実現にむけてのバイオマス再生資源化における環境ガバナンスの研究ー食品リサイクルからみた地域循環システムの形成に関するケーススタディー	4,471
	福島 学 助教授	・感性情報に基づく音響情報の適切な配信を目的とした音響品質管理のための物理指標の検討	4,835
	狩俣 恵常 教授	・DVD教材自作による大学授業の改善に関する実践的研究	423
	行田 尚義 教授	・ディスプレイ画像のカラープリンター画像への変換	920

	坂東 宏和 講師	・パーソナルコンピュータの操作教育を支援するシステムの開発	1,300
	若原 俊彦 教授	・統合型教育管理支援システムの研究	1,350
	倪 宝栄 教授	・大学院留学生予備教育における情報通信技術およびeラーニングの応用に関する研究	1,450
重点課題	山元 規靖 講師	・ワイヤレスインターネットを利用したユビキタス講義システム実現法の研究	800

資料 15 平成 16 年度情報科学研究所研究員課題(プロジェクト・特別研究含む)

(単位 千円)

部 門	研究代表者・職位	研 究 課 題	研究費
知能メディア	横田 将生 教授	・人間・ロボット協調系における環境理解およびコミュニケーションの統合的研究	3,350
	趙 建軍 助教授	・アスペクト指向プログラム依存性理論に基づく統合的ソフトウェア開発支援環境の構築	3,150
	チャピ ケンツイ 講師	・実時間進化および学習ロボットの研究	1,500
システム科学	若原 俊彦 教授	・RFIDタグの電波伝搬特性の解明とその評価	5,000
	杉田 薫 講師	・感性情報処理に基づいたデジタル伝統工芸システムに関する研究	1,300
情報応用	バロリ レオナルド 助教授	・情報通信ネットワークのための通信品質(QoS)経路制御に関する研究	3,500
	倪 宝栄 教授	・単位認定を視野に入れた日中間大学院遠隔教育システムの構築及び実践	1,400
	曾 超 助教授	・Webにおける統合型学習・教育支援システムの研究開発	1,200
	若原 俊彦 教授	・ユビキタス講義支援システムの研究	500

資料 16 客員・共同研究員一覧

客員研究員名(所属)	テ ー マ 名	受け入れ教員名	研究期間
李 国平 (済南大学機械工程大学 講師)	3次元画像計測の実用化	盧 存偉 (情報工学科助教授)	H15/1/1 から H15/3/31 まで

共同研究員名(所属)	テ ー マ 名	受け入れ教員名	研究期間
趙 新有 (桂林電子工業学院 講師)	Global Information Infrastructure for Modern e-Learning Technology	倪 宝栄 (機能材料工学科教授)	H16/5/1 から H17/4/30 まで

資料17 モノづくりセンター利用者内訳の推移 (単位：人)

利用者所属	利用目的	H 1 3	H 1 4	H 1 5	H16/11月 末
大 学	プロジェクト	1,502	2,623	2,847	2,639
	卒業研究	1,698	956	688	609
	一般利用	476	662	574	422
	小 計	3,676	4,241	4,109	3,670
大学院	プロジェクト	0	51	4	9
	卒業研究	0	106	170	88
	一般利用	0	30	63	29
	小 計	0	187	237	126
短 大	プロジェクト	166	317	96	152
	卒業研究	0	0	21	2
	一般利用	52	123	32	5
	小 計	218	440	149	159
附属高校	プロジェクト	54	14	21	0
	卒業研究	0	0	0	0
	一般利用	662	432	57	11
	小 計	716	446	78	11
教職員		331	112	108	64
合 計		4,941	5,426	4,681	4,030

資料 18 パーツショップ等の利用状況

	H 1 3	H 1 4	H 1 5	H16/11月 末
パーツショップ (数量)	7,683	9,951	10,209	2,863
大型カラープリンター (枚数)	285	193	901	511
大型機械・設備 (件数)	1,593	643	846	734

資料 19 プロジェクト活動内容および大会出場戦績状況（平成 16 年度現在）

プロジェクト名	メンバー数	活 動 内 容（平成12～15年度）
電気自動車	8名	軽自動車を改造した電気自動車を製作し、福岡で初めて車検を通しナンバーを取得、公道走行が可能となった。平成12年度より「四国EVラリーフェスティバル」に5年連続出場し、H13年輕自動車部門6位入賞。H14年2位。H16年ラリーエコタイム部門で準優勝
ソーラーカー	12名	平成13年度「朝日ソーラーラリーIN神戸」に出場。平成14年度より「DreamCupソーラーレース鈴鹿」の4時間耐久レースに連続出場平成16年14周し43チーム中31位の戦績を残した。
ソーラーEV	6名	自然エネルギー利用の太陽パネル電池で走るソーラーカーを製作。ナンバーを取得して一般公道を走り、九州一週することが目標。
ソーラーボートとカヌー製作	22名	毎年8月に福岡県柳川市で開催される「ソーラーボート大会」への出場を目標にボートを製作。平成13年度より4年連続大会に出場。
ロボコン	22名	平成12年、平成13年「NHKアイデア対決ロボットコンテスト世界大会」に連続出場。平成12年には、入賞（ベスト6）を果たした。平成16年度日本大会への出場を果たした。
ロボット相撲	21名	直径1.5mの土俵の上で戦う自立型、ラジコン型と2種類のロボットを製作。平成12年以降毎年全日本ロボット相撲大会九州地区大会に出場。平成14年、16年全国大会への出場権を獲得し、東京都両国国技館にて開催される全国大会に出場を果たす。
太陽光発電	3名	太陽光発電システムを作り、自然エネルギーの太陽光を活用することで、環境問題やエネルギー問題に目を向けたモノづくりの楽しさを実感しながらインバーターの製作などに取り組んでいる。
手作りアクセサリー	32名	女性を中心に銀・七宝焼きなどでアクセサリーを製作している。キャンパス見学会での展示・販売などを行っている。
電動車椅子	8名	身障者の方への贈呈をボランティア活動として実践。ユーザーの要望を踏まえ、全方向移動可能な室内用電動車椅子の開発・試作にチャレンジしている。
ロボット製作講習会地方巡業	17名	離島や僻地の小・中学校でロボット製作講習会を開催し、モノづくりの楽しさを体験してもらうボランティア活動に取り組んでいる平成15年種子島、平成16年久米島で開講
マイクロマウスロボット	22名	センサーなどを内蔵した自立小型ロボットで、迷路を走ってゴールする競技に参加している。平成13年度「マイクロマウス2001」に出場。以降大会への出場は行っていない
ロボカップ	39名	ソニーアiboを用いた4足ロボットリーグ出場。平成13年度ロボカップ世界大会（シトル）以来、日本、イタリア、ポルトガルで開催された世界大会に4年連続出場を果たしている
滑空機（グライダー）	23名	「鳥人間コンテスト」への出場を目指して活動。平成15年ラト兄弟が初飛行に成功したフライヤー号の実物大復元機を完成させた。

資料 20 学外者を対象にしたイベント実績及び製作作品の出展事例紹介

開催・実施日	イベント・催し事タイトル及び内容	会場
H14年8月5～6日	福岡商工会議所主催 「ロボット製作講習会」	モノづくりセンター
H14年8月24日～毎週	JR九州協賛 「わくわく体験きっぷ」講習会	モノづくりセンター
H15年5月 3日～毎週	JR九州協賛 「わくわく体験きっぷ」講習会	モノづくりセンター
H15年2月19日	「産官学交流フェア2003」へ ロボカップ出展	F I Tアリーナ
H15年 8月25～31日	ロボット製作講習会開催	中種子町公民館
H15年9月15・28・5日	海の中道フェスティバル2004 わくわくロボットDay	福岡市海の中道海浜公園
H15年11月29日	福岡国税局厚生課主催 「ロボット製作講習会」	モノづくりセンター
H15年12月25～26日	福岡商工会議所主催 「ロボット製作講習会」	モノづくりセンター
H16年2月20日	「産官学技術交流フェア2004」へ ソーラーカー出展	F I Tアリーナ
H16年2月26日～28日	「国際ロボット見本市2004」へ ロボット出展	北九州西日本総合展示場
H16年8月21～22日	「青少年のための科学の祭典 KUMAMOTO2004」へ出展	グランメッセ熊本
H16年9月2～7日	ロボット製作講習会地方巡業開催	久米島農業環境改善 センター

資料 21 エクステンションセンター教室構成

所在地	本部棟 7階・8階（事務室は7階）
教室数	30～40名収容教室 1室
	15～25名収容教室 7室
	OA教室（30名収容） 2室
	多目的教室 1室
担当人員	事務職員 3名
開講講座	資格取得支援講座／情報関連講座／文化教養講座の3区分
開場時間	（月～金）8：50～21：10、（土）9：00～15：00
業務内容	各種講座企画運営、各種検定試験の案内、受付、受験会場準備、 検定監督者手配、結果発表等

資料 22

エクステンションセンター実績

	H16年度状況*	H15年度実績	H14年度実績
開講講座数	189	219	232
受講者数	1,633	2,622	2,982
会員累計	2,527	1,861	1,630
講座別収入 (単位:千円)			
資格取得支援講座	26,031	23,263	25,852
情報関連講座	3,995	6,706	9,243
文化教養講座	10,563	14,412	12,831
年会費	698	938	1,680
年間収入	41,287	45,319 (前年比91%)	49,606
講師料	5,150	28,847	30,008

* : H16年度状況は9月末累計を記載

資料 23

2003秋冬講座アンケート集計結果(情報関連)

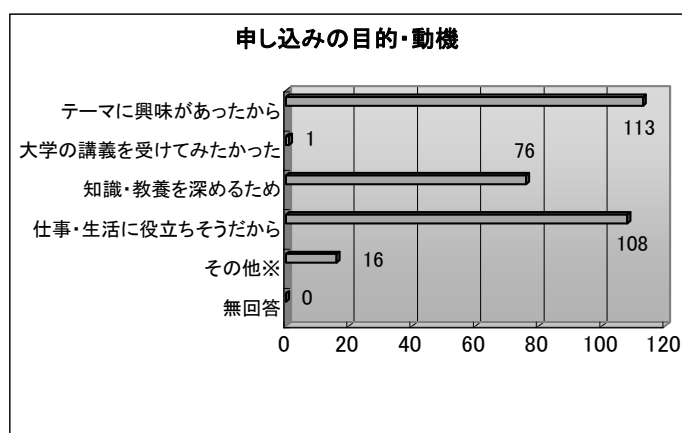
回答数: 203

1. 申し込みの目的・動機(複数回答)

選 択 肢	回答数	比 率
テーマに興味があったから	113	36.0%
大学の講義を受けてみたかった	1	0.3%
知識・教養を深めるため	76	24.2%
仕事・生活に役立ちそうだから	108	34.4%
その他※	16	5.1%
無回答	0	0.0%
合 計	314	100.0%

※その他具体回答

- スキルアップ(8)
- 役立ったため(2)
- ポケ防止(2)
- 対応がいいから
- 仕事に必要なため
- 実際に使ってみたかったの

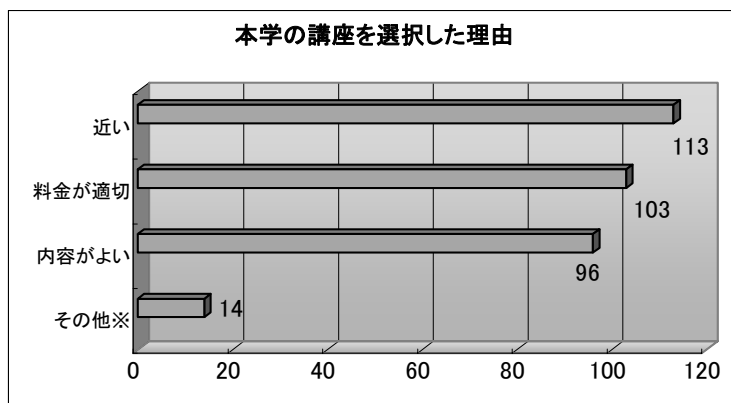


2. 本学の講座を選択した理由(複数回答)

選 択 肢	回答数	比 率
近い	113	34.7%
料金が適切	103	31.6%
内容がよい	96	29.4%
その他※	14	4.3%
合 計	326	100.0%

※その他具体回答

- 関連のある講座の受講経験がある(3)
- 紹介された(3)
- 日程が合った(2)
- 評判を聞いて(2)
- 駅に近い
- 大学キャンパスの雰囲気が好き
- 他で開講しているところになかったので

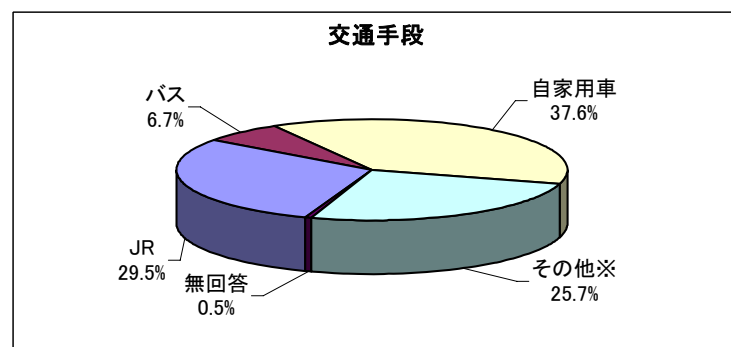


3. 交通手段は(複数回答)

選 択 肢	回答数	比 率
JR	62	29.5%
バス	14	6.7%
自家用車	79	37.6%
その他※	54	25.7%
無回答	1	0.5%
合 計	210	100.0%

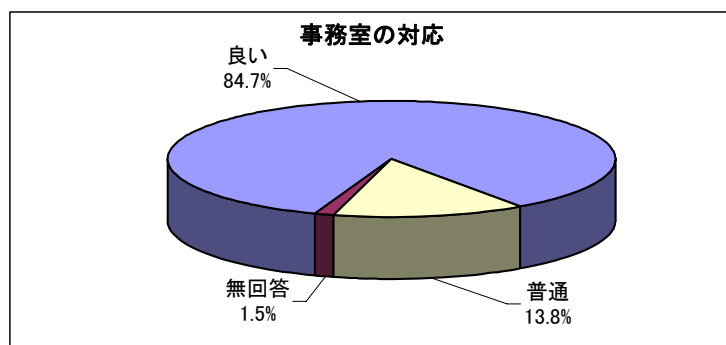
※その他具体回答

- 徒歩(37)
- 自転車(13)
- バイク(1)



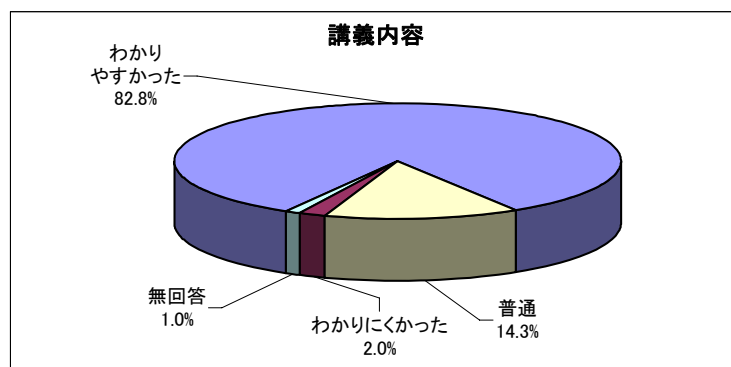
4. エクステンションセンター事務室の対応は

選 択 肢	回答数	比 率
良い	172	84.7%
普通	28	13.8%
悪い	0	0.0%
無回答	3	1.5%
合 計	203	100.0%



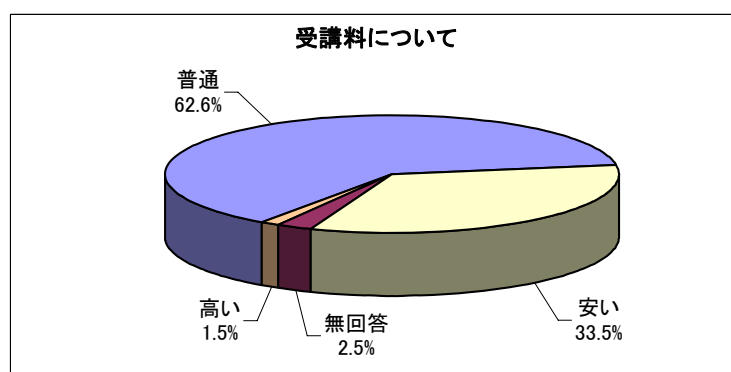
5.講義内容は

選 択 肢	回 答 数	比 率
わかりやすかった	168	82.8%
普通	29	14.3%
わかりにくかった	4	2.0%
無回答	2	1.0%
合 計	203	100.0%



6.受講料について

選 択 肢	回 答 数	比 率
高い	3	1.5%
普通	127	62.6%
安い	68	33.5%
無回答	5	2.5%
合 計	203	100.0%

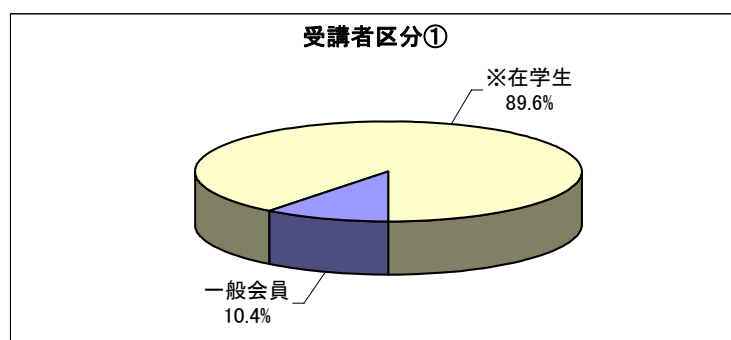


2003秋冬講座アンケート集計結果(資格取得)

回答数: 288

1-1.受講者区分①

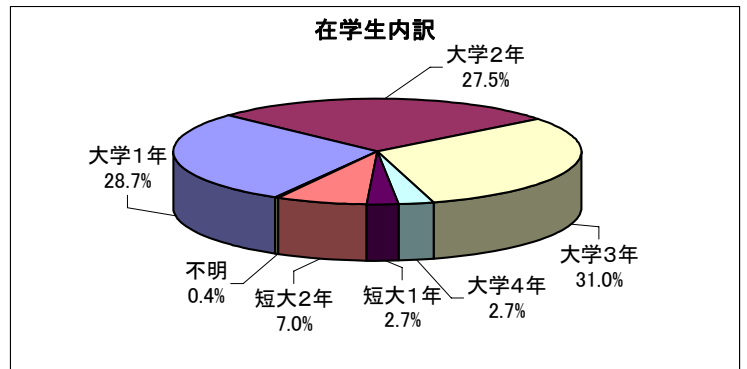
選 択 肢	回 答 数	比 率
一般会員	30	10.4%
※在学生	258	89.6%
合 計	288	100.0%



1-2.受講者区分②(学年別)

在学生内訳

選 択 肢	回答数	比 率
大学1年	74	28.7%
大学2年	71	27.5%
大学3年	80	31.0%
大学4年	7	2.7%
短大1年	7	2.7%
短大2年	18	7.0%
不明	1	0.4%
合 計	258	100.0%



2.今回受講した講座について

①時間の長さは

選 択 肢	回答数	比 率
長い	48	16.7%
適切	227	78.8%
短い	13	4.5%
無効回答	0	0.0%
合 計	288	100.0%

②設定回数は

選 択 肢	回答数	比 率
多い	11	3.8%
適切	186	64.6%
少ない	91	31.6%
無効回答	0	0.0%
合 計	288	100.0%

③講義内容は

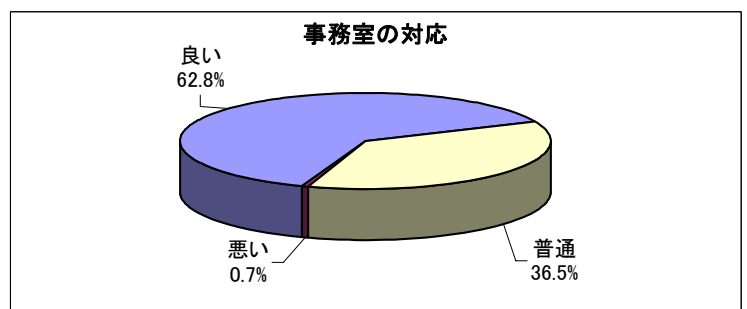
選 択 肢	回答数	比 率
わかりやすい	164	56.9%
普通	114	39.6%
わかりにくい	9	3.1%
無効回答	1	0.3%
合 計	288	100.0%

④受講料については

選 択 肢	回答数	比 率
高い	127	44.1%
普通	131	45.5%
安い	29	10.1%
無効回答	1	0.3%
合 計	288	100.0%

3.エクステンションセンター事務室の対応は

選 択 肢	回答数	比 率
良い	181	62.8%
普通	105	36.5%
悪い	2	0.7%
無回答	0	0.0%
合 計	288	100.0%

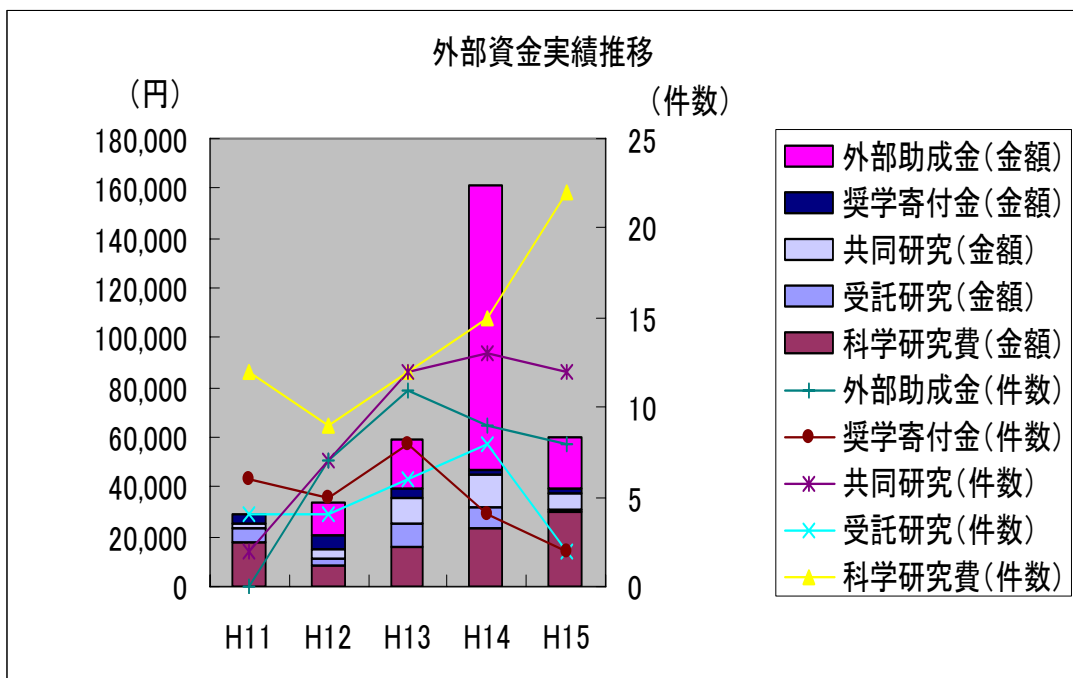


4.学内に資格取得支援講座があることについての具体的意見(在学生のみ対象)

- 良いと思う(125)
- 学内で講座があるので便利(27)
- 便利(18)
- もっと講座の種類を増やして欲しい(17)
- 色々な資格が取得しやすい(12)
- 資格を取る意欲がわくので良い(9)
- 専門学校に行くより安い(6)
- これからも続けて行って欲しい(5)
- 素晴らしい(4)
- 講座をもっと大きく取りあげてほしい(3)
- 良い。ただ予定時間や期間が厳しい(3)
- 受講料が高い(2)
- 資格の窓口が身近にあるのでよい(2)

資料 24

外部資金の獲得状況



資料 25 所蔵資料数の分類別割合（平成 16 年 5 月 1 日現在）

分類	図書	雑誌	視聴覚資料
総記	14.2%	36.8%	2.0%
哲学	2.3%	0.4%	0.1%
歴史	2.5%	0.4%	6.8%
社会科学	13.7%	6.7%	3.1%
自然科学	25.0%	14.5%	7.8%
工学	32.2%	38.6%	10.8%
産業	1.1%	0.4%	0.8%
芸術	2.3%	1.0%	59.6%
言語	3.3%	0.7%	3.8%
文学	3.5%	0.5%	5.2%
計	100%	100%	100%

資料 26 過去 5 年間の図書館資料の受入状況

(単位 図書…冊、雑誌…種 (タイトル))

	実質年度 (調査日付)	平成 11 年度 (H12.5.1)	平成 12 年度 (H13.5.1)	平成 13 年度 (H14.5.1)	平成 14 年度 (H15.5.1)	平成 15 年度 (H16.5.1)
図書	和書	3,668	7,162	6,438	4,944	4,715
	洋書	1,318	3,367	3,150	1,123	1,184
	計	4,986	10,529	9,588	6,067	5,899
学術雑誌	和雑誌	427	471	471	457	466
	洋雑誌	350	376	379	335	322
	計	777	847	850	792	788
合計		5,763	11,376	10,438	6,859	6,687

資料 27 過去 5 年間の図書館資料予算と実績 (単位：千円)

	平成 11 年度		平成 12 年度		平成 13 年度		平成 14 年度		平成 15 年度	
	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績
図書費	15,400	12,122	16,102	10,494	13,125	9,251	7,100	4,435	6,700	4,823
出版物費	54,555	53,127	57,570	54,589	60,347	63,167	62,475	63,063	60,856	61,444
計	69,955	65,249	73,672	65,083	73,472	72,418	69,575	67,498	67,556	66,267

資料 28 施設の規模及び視聴覚機器 (平成 15 年 5 月現在)

①施設の用途別面積 (単位：㎡)

閲覧室	書庫	自習室	事務室	その他	計
2,227	477	206	395	840	4,145

②視聴覚機器 (単位：台)

マイクロリーダー	テープレコーダー	ビデオレコーダー	CD・LD・DVDプレーヤー	その他	計
1	8	12	17	1	39

資料 29 過去 5 年間の入館者数及び貸出冊数

		平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
入館者数		113,741 人	113,401 人	92,126 人	87,763 人	70,282 人
館外貸出冊数	学生	23,329 冊	19,685 冊	19,325 冊	17,320 冊	12,650 冊
	教職員	1,009 冊	1,065 冊	1,279 冊	1,388 冊	1,204 冊
	その他	1,141 冊	987 冊	978 冊	1,369 冊	938 冊
	計	25,479 冊	21,737 冊	21,582 冊	20,077 冊	14,792 冊

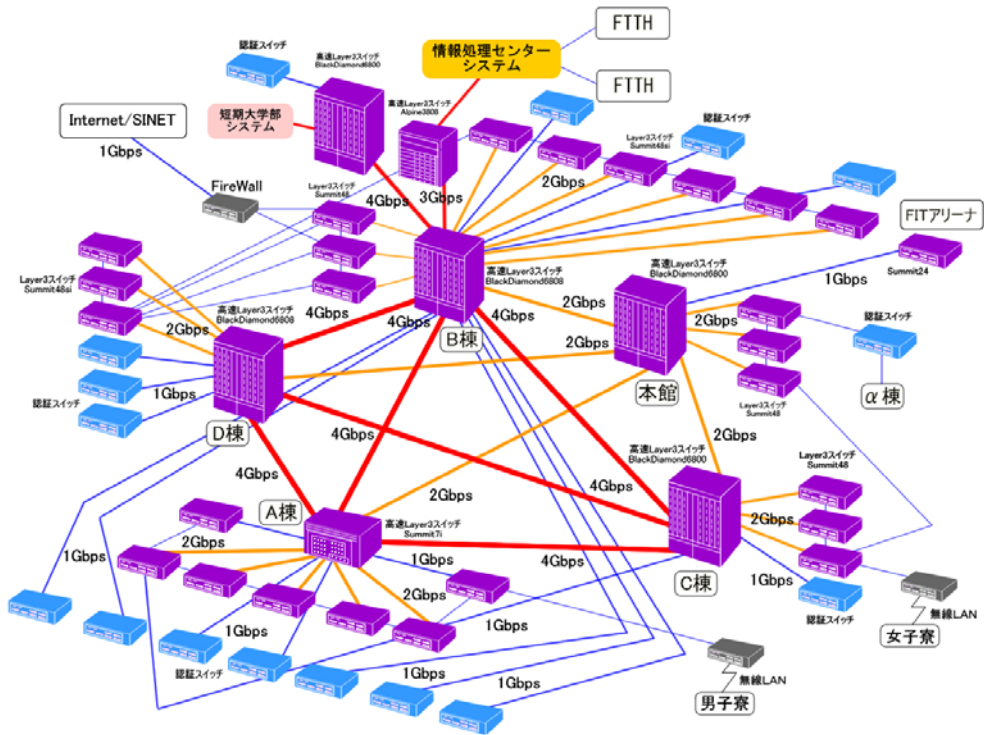
資料 30 外部システムとの接続

外部システム名	
JDream	(科学技術振興機構)
NACSIS-IR	(国立情報学研究所)
NACSIS-ELS	(国立情報学研究所)
JOIS Easy	(科学技術振興機構)
STN Easy	(科学技術振興機構)

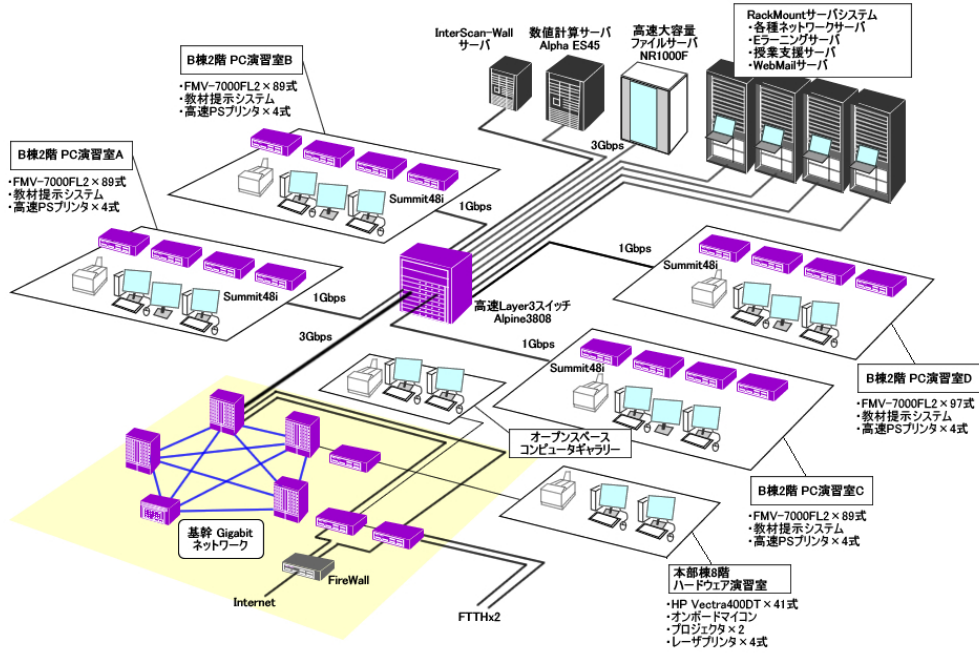
資料 31 過去 5 年間の図書館間の相互協力 (単位：件)

		平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
相互貸借	受付	34	19	34	33	38
	依頼	4	28	45	53	78
文献複写	受付	481	333	355	353	398
	依頼	215	438	636	476	700

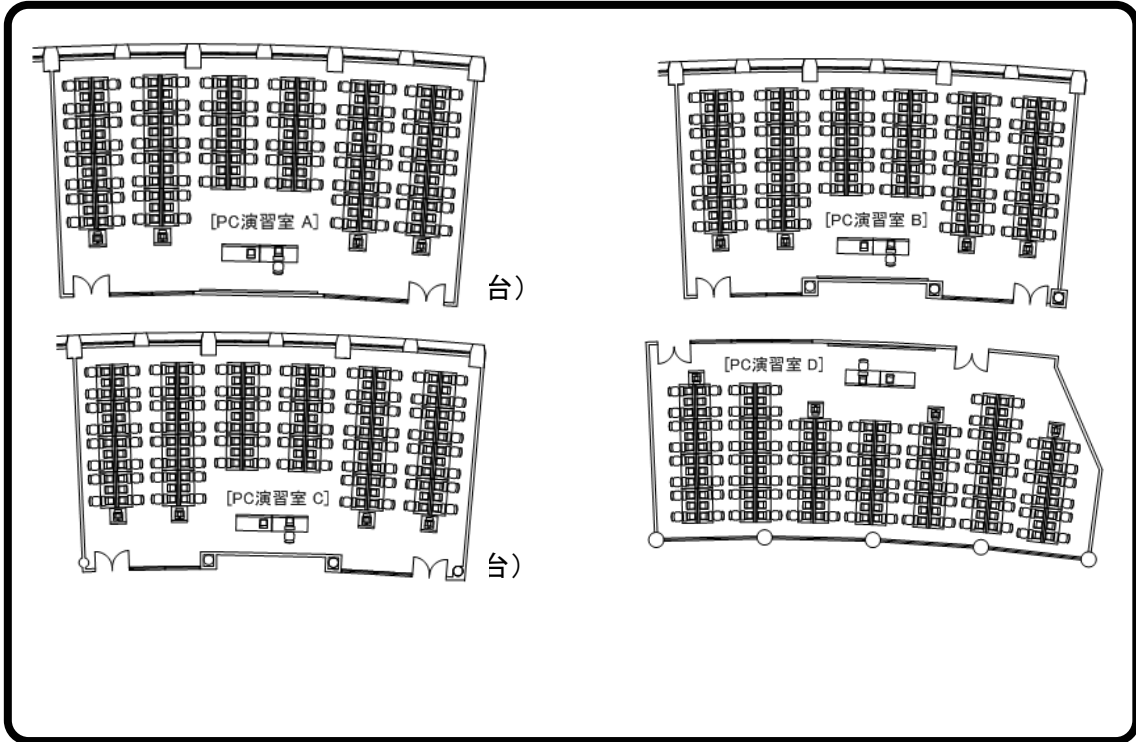
学内総合情報ネットワーク FITNeS



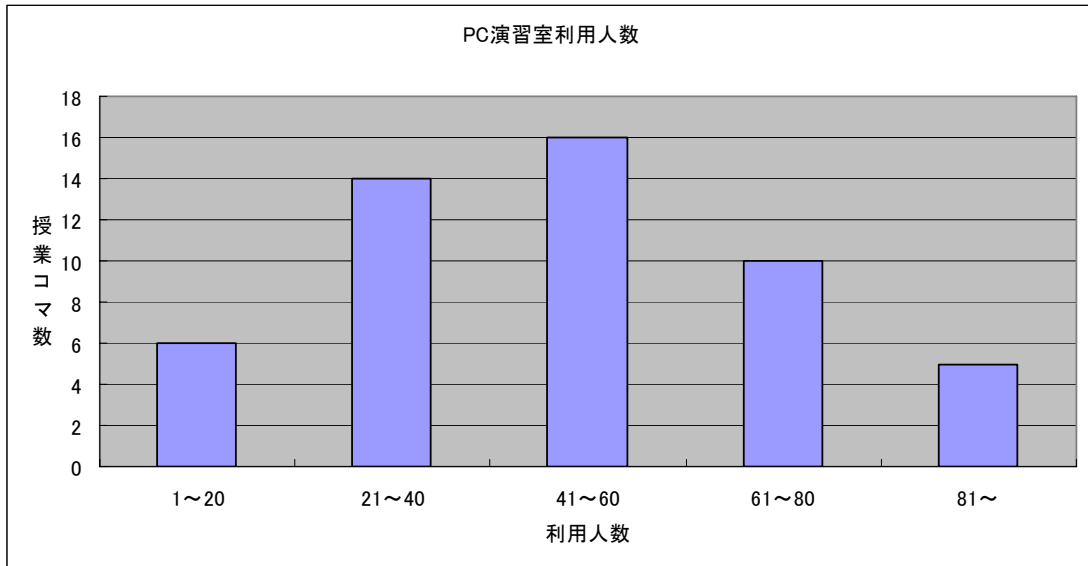
情報処理センターシステム



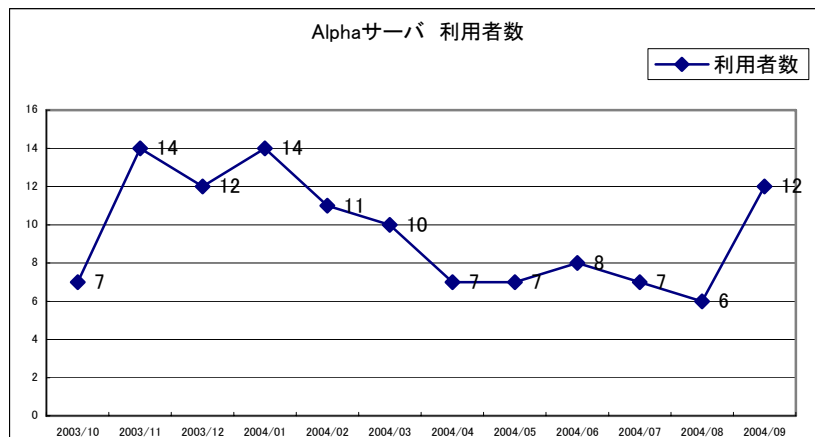
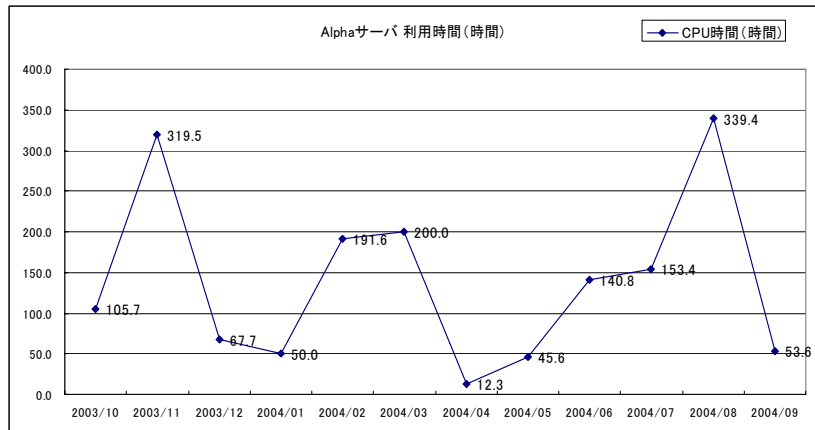
資料 34 PC演習室レイアウト図とPC設置台数



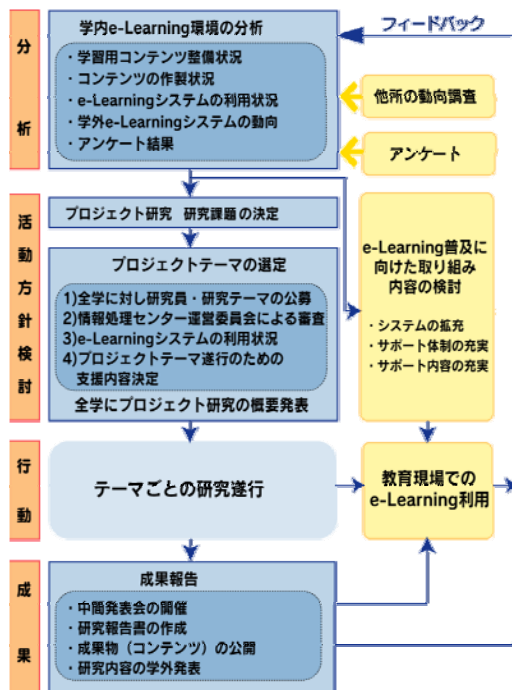
資料 35 PC演習室利用人数分布



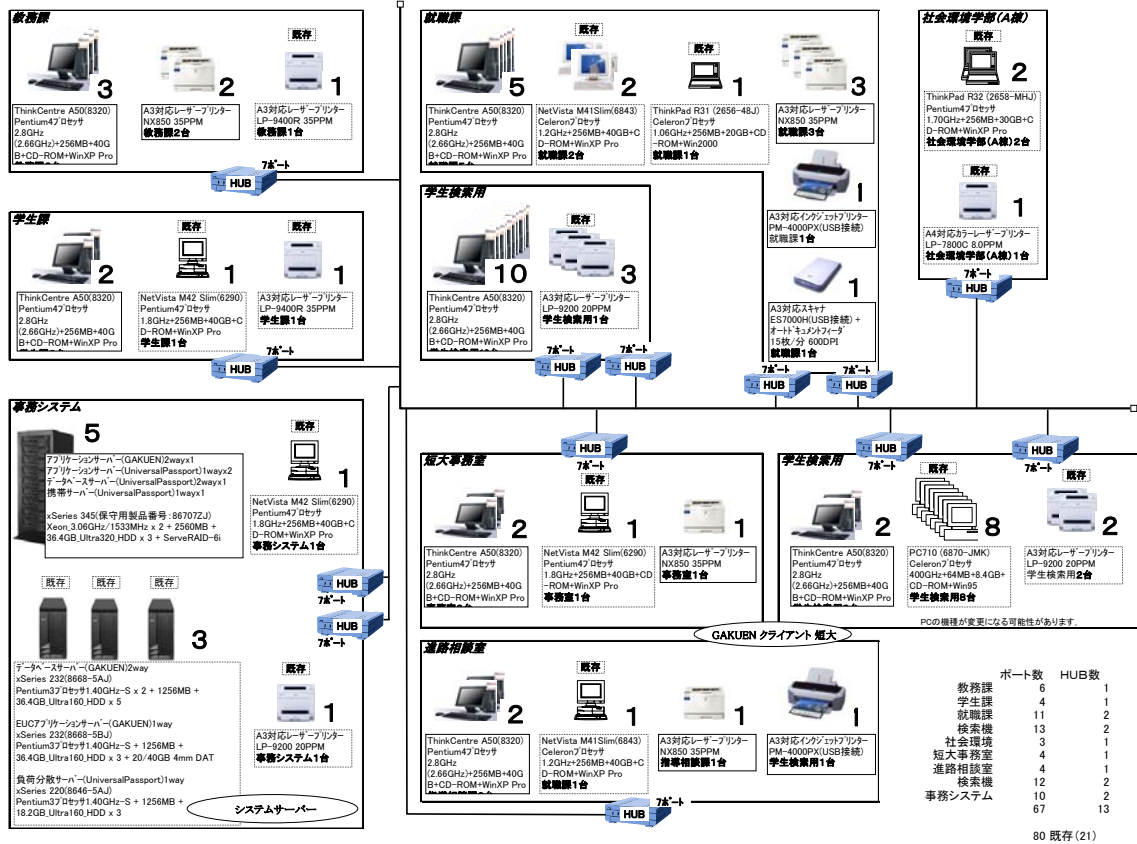
資料36 Alphaサーバの利用時間と利用者数



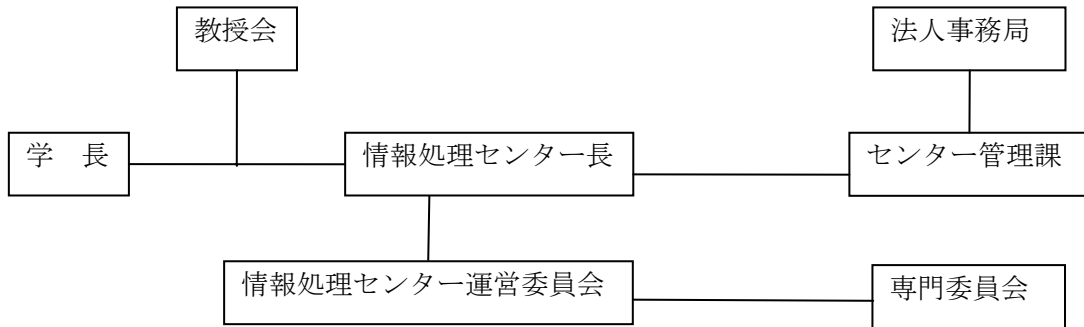
資料 37 研究プロジェクト遂行フロー



資料 38 新事務システム構成図



資料 39 運営体制



資料 40 PC 演習室 利用可能ソフトウェア一覧

Windows 環境	
OS	Microsoft WindowsXP Professional Windows98【PC演習室Aのみ】
基本アプリケーション オフィス関係 言語関係 数値計算 CAD	Microsoft OfficeXP 2003 (Word,Excel,Access,PowerPoint) VisualStudio6.0 (VisualBasic6.0/VisualC++6.0) VisualStudio .NET (BASIC.NET,C++.NET,C#.NET,J#.NET) UltraC (インタプリタ型 C 言語)【PC演習室Bのみ】 Mathematica AutoCAD98-LT【PC演習室Aのみ】
フリーソフトウェア PDF ファイルビューワ PDF 作成 タッチタイピング練習 JAVA 開発環境 言語環境 エディタ ブラウザ 圧縮/圧縮解凍 Web3D ビューア Telnet クライアント FTP クライアント 動画再生ソフト	Adobe AcrobatReader Adobe Acrobat【PC演習室Bのみ】 TypingClub JDK Borland C++ Compiler (C++コンパイラ) 十進 BASIC、N88 互換 BASIC (BASIC 環境) MKEditor,HTML Maker AZUKI(タグ挿入型 HTML エディタ) Internet Explorer6.0 (Flash 対応) +Lhaca Web3D Cortona Plug-in TeraTermPro(telnet/SSH 対応) FFFTP RealOnePlayer、QuickTime Player、Windows MediaPlayer
Linux 環境	
OS	Vine Linux 2.5
フリーソフトウェア エディタ 日本語入力 画像処理関連 言語環境 ブラウザ オフィス関係 動画再生ソフト PDF ファイルビューワ 3DCG ソフト	Emacs (日本語エディタ) Canna Gimp、ElectricEyes、Tgif gcc、g++、g77、clisp、gcl、Java2、B-Prolog、OpenCOBOL Mozilla OpenOffice Real Player Acrobat Reader POV-Ray、Glade、Moonlight3D

資料 41 2004 年度 PC 演習室 A 時間割

PC演習室A（前期）

	月	火	水	木	金
1 9:00 10:30	デジタル信号処理 及び演習 松尾(敬) 電気3	パソコンリテラシー 高橋 短期大学部OA1	情報処理 I チャピ システムマネジメント 1		科学情報処理I 森下 機能材料3-1
2 10:40 12:10	計算機リテラシー 石原 短期大学部OA1	基礎ゼミナール I 西田 情報通信1	計算機リテラシー 石原 短期大学部OA1		情報処理III演習 チャピ 管理情報3
3 13:00 14:30	計算機援用設計 溝田・木野 知能機械4-A	メディア プレゼンテーション 松田 社会環境3-A	マイコンシステム 及び演習 松原・築地 知能機械2-B	計算機援用工学 及び演習 溝田・木野 知能機械3-A	情報工学実験III 荒屋 情報3
4 14:40 16:10	C言語及び演習 松原 知能機械3-B	科学情報処理I 森下 機能材料3-2		情報処理基礎 片山 システム1-2	
5 16:20 17:50					

PC演習室A（後期）

	月	火	水	木	金
1 9:00 10:30		基礎製図及びCAD 演習 II 機能 知能機械1-2	情報工学実験IV 柴田 情報3		コンピュータリテラシー 応用 田島 機能材料1-1
2 10:40 12:10	計算機工学演習 笠 管理情報2	基礎ゼミナール II パロリ 情報通信1			コンピュータリテラ シー応用 田島 機能材料1-2
3 13:00 14:30	プログラミング言語VI 百原 情報3-2	Cプログラミング基礎 福島 情報1-1	マイコンシステム及び 演習 松原・築地 知能機械2-B	計算機援用工学 及び演習 溝田・木野 知能機械3-A	プログラミング言語演 習 I 杉田 情報通信1-2
4 14:40 16:10	コンピュータリテラシー 相良 情報1-2①	Cプログラミング基礎 相良 情報1-2		基礎製図及びCAD 演習 II 機能 知能機械1-1	コンピュータリテラシー 相良 情報1-2②
5 16:20 17:50					

資料 42 2004 年度 PC 演習室 B 時間割

PC演習室B (前期)

	月	火	水	木	金
1 9:00 10:30	情報数学 I 伊藤 情報通信2		情報工学特別講義 情報3-1	コンピュータリテラシー 大山 電気1-1	
2 10:40 12:10	情報処理 II 松尾(哲) システムマネジメント1	基礎ゼミナール I 情報通信1	情報工学特別講義 情報3-2	コンピュータリテラシー 大山 電気1-2	コンピュータリテラシー 神谷 機能材料1-1
3 13:00 14:30	コンピュータリテラシー 浦詰 知能機械1-1	ソフトウェア工学 柴田 情報3-1	情報基礎ゼミ 須崎 情報1-1	Fortran及び演習 浦詰 知能機械2-2	情報処理基礎 片山 システム1-1
4 14:40 16:10	データベース 笠 管理情報3	ソフトウェア工学 柴田 情報3-2		プログラミング言語 I 山口(俊) 電気1-1	プログラミング言語 I 山口(俊) 電気1-2
5 16:20 17:50					コンピュータリテラシー 神谷 機能材料1-2

PC演習室B (後期)

	月	火	水	木	金
1 9:00 10:30	オペレーティングシステム 山崎 短期大学部	言語情報処理演習 笠 システムマネジメント3		数値計算 佐賀 短大電子情報システム	Javaプログラミング 山崎 短大電子情報システム
2 10:40 12:10	情報数学 II 伊藤 真 情報通信2	基礎ゼミナール II 山元 情報通信1		応用物理 倪 大学院	科学情報処理 II 森下 機能材料3-2
3 13:00 14:30	プロジェクト 小田 短期大学部	マルチメディア演習 松田 社会環境2-A	オペレーティングシステム 山崎 短大電子情報システム	コンピュータリテラシー 寺田 情報1-1①	科学情報処理 II 森下 機能材料3-1
4 14:40 16:10	プレゼンテーション基礎 松尾(哲) マネジメント1	マルチメディア演習 松田 社会環境2-B			情報処理 III チャピ 管理情報2
5 16:20 17:50					

資料 43 2004 年度 PC 演習室 C 時間割

PC演習室C (前期)

	月	火	水	木	金
1 9:00 10:30	計算機リテラシー 広中 短期大学部 電子1		Fortran及び演習 浦詰 知能機械2-1	計算機リテラシー 広中 短期大学部 電子1	プログラミング言語 演習Ⅲ 相良 情報2-2
2 10:40 12:10	プログラミングⅡ 坂東 電子情報2-1	基礎ゼミナールⅠ 情報通信1	コンピュータリテラシー 西田 情報通信1-1	コンピュータ言語Ⅰ 田島 機能材料2-2	コンピュータ言語Ⅰ 田島 機能材料2-1
3 13:00 14:30		データベース演習 徐 情報2-1	情報基礎ゼミナール 趙 情報1	プログラミング言語 演習Ⅴ 趙 情報3-1	情報工学実験Ⅲ 寺田 情報3
4 14:40 16:10	プログラミングⅡ 坂東 電子情報2-2	データベース演習 徐 情報2-2		プログラミング言語 演習Ⅴ 趙 情報3-1	
5 16:20 17:50					情報処理Ⅱ演習 山口(明) システム2

PC演習室C (後期)

	月	火	水	木	金
1 9:00 10:30		コンピュータスキル 坂東 電子情報1-1	アルゴリズム 坂東 電子情報2-1	電気磁気学B 倪 機能材料2	プログラミング言語Ⅱ 今村 電気1-1
2 10:40 12:10	プログラミング言語 演習Ⅵ 百原 情報3-1	プログラミング言語 演習Ⅳ 百原 情報2-2	アルゴリズム 坂東 電子情報2-2		プログラミング言語 演習Ⅰ 西田 情報通信1-1
3 13:00 14:30	コンピュータスキル 坂東 電子情報1-2	プログラミング言語・ 演習Ⅳ 百原 情報2-1		コンピュータリテラシー 百原 情報1-1②	プログラミング言語Ⅱ 今村 電気1-2
4 14:40 16:10	コンピュータ グラフィック 山口(明) システム2	計算機工学 笠 システムマネジメント1			CG概論 平岡 短大電子情報システム
5 16:20 17:50	行田 システム				

資料 44 2004 年度 PC 演習室 D 時間割

PC演習室D (前期)

	月	火	水	木	金
1 9:00 10:30	コンピュータリテラシー 浦詰 知能機械1-2		パソコンリテラシー 高橋 短期大学部 OA1	コンピュータ科学 百原 情報1-2	
2 10:40 12:10	コンピュータリテラシー 田中(秀) 電子情報1-1	基礎ゼミナール I 若原 情報通信1		コンピュータ科学 百原 情報1-1	
3 13:00 14:30	情報処理II 演習 松尾(哲) 管理情報2	制御理論 伊藤 情報通信3	情報基礎ゼミナール 柴田 情報1	オペレーティング システム演習 柴田 情報2-2	プログラミング言語 演習III 福島 情報2-1
4 14:40 16:10	コンピュータリテラシー 山元 情報通信1-2	メディア プレゼンテーション 松田 社会環境3-B		オペレーティング システム演習 柴田 情報2-1	コンピュータリテラ シー 田中(秀) 電子情報1-2
5 16:20 17:50					

PC演習室D (後期)

	月	火	水	木	金
1 9:00 10:30	コンピュータ ネットワーク 辻野 電気1-1	システム設計演習 弘中 短大電子情報システム	情報工学実験IV 徐	データ構造と アルゴリズム 柴田 情報2-1	物理学演習 II 吉田 情報システム1-1
2 10:40 12:10	コンピュータ ネットワーク 辻野 電気1-2	データベース工学演習 徐 情報工学専攻1	情報3		データ構造と アルゴリズム 徐 情報2-2
3 13:00 14:30	ソフトウェア工学 特論 II 柴田 情報工学専攻1	プロジェクト 高橋 短期大学部		物理学実験 熊谷・鎌倉 情報通信1	情報技術資格 I 品川・西村 電子情報1-2
4 14:40 16:10	ネットワーク演習 若原 情報工学専攻1	情報技術資格 I 品川・西村			
5 16:20 17:50		電子情報1-1		物理学演習 II 吉田 情報システム1-1	

資料 45 2004 年度 ハードウェア演習室時間割

ハードウェア演習室（前期）

	月	火	水	木	金
1 9:00 10:30					
2 10:40 12:10					
3 13:00 14:30	マイクロコンピュータ 工学演習 上田 管理情報4		マイコンシステム及び 演習 松原・築地 知能機械2		
4 14:40 16:10					
5 16:20 17:50					

ハードウェア演習室（後期）

	月	火	水	木	金
1 9:00 10:30				知能機械制御言語 及び演習 知能機械1-2	
2 10:40 12:10					
3 13:00 14:30			マイコンシステム及び 演習 松原・築地 知能機械2		
4 14:40 16:10					
5 16:20 17:50				知能機械制御言語 及び演習 知能機械1-1	

資料 46 コンテンツ一覧

2002 年度

区分	コンテンツ名
学部共通	よくわかる Word 2002 基礎 よくわかる Excel 2002 基礎 C言語入門編 オブジェクト指向&C++入門編 C言語中級編 基本情報技術者試験 2002年度版 TOEIC Test 470点対策コース TOEIC Test 実力判定テスト
情報通信工学科	情報通信「計算機工学Ⅱ」
情報システム	情報システム「計算機ハードウェアⅡ」
合計	10コンテンツ

2003 年度

区分	コンテンツ名
学部共通	楽しいコンピュータライフ～FITNeSローカルガイド ホームページ入門 よくわかる Word 2002 基礎 よくわかる Excel 2002 基礎 C言語入門編 オブジェクト指向&C++入門編 C言語中級編 基本情報技術者試験 2002年度版 TOEIC Test 470点対策コース TOEIC Test 実力判定テスト
機能材料工学科	電気磁気学Ⅰ(材料) 機能材料「超伝導工学」 C言語学習講座(ライブ講座)
情報工学科	情報「論理回路2003」
情報通信工学科	情報通信「計算機工学Ⅱ」 情報通信工学科「電磁気学・演習Ⅰ」 情報通信「計算機工学Ⅰ」 情報通信「計算機工学Ⅱ2003」 情報通信工学科「電磁気学・演習Ⅱ」 情報通信「計算機工学Ⅱ」(ライブ講座)
情報システム	情報システム「計算機ハードウェアⅠ」 情報システム「計算機ハードウェアⅡ」 情報システム「大学初年度数学学習講座」
システムマネジメント学科	システムマネジメント「オペレーションズ・リサーチ入門」
社会環境学科	社会環境「エネルギー経済論Ⅰ」 社会環境「エネルギー政策論Ⅰ」 社会環境「エネルギー経済論Ⅱ」 社会環境「エネルギー経済論Ⅰ2003」 社会環境「エネルギー政策論Ⅱ2003」
情報処理センター	Internet Navigware用の教材作成方法
合計	30コンテンツ

区 分	コンテンツ名
学部共通	楽しいコンピュータライフ～FITNeSローカルガイド ホームページ入門 よくわかる Word 2002 基礎 よくわかる Excel 2002 基礎 C言語入門編 オブジェクト指向&C++入門編 C言語中級編 基本情報技術者試験 2002年度版 TOEIC Test 470点対策コース TOEIC Test 実力判定テスト 初めてできる MicrosoftOfficeアカデミックプログラム-WORD2003- 初めてできる MicrosoftOfficeアカデミックプログラム-EXCEL2003-
電子情報工学科	応用実験・画像処理 応用実験・画像処理とHP製作 応用実験・CAE I 応用実験・CAE II 盧研究室卒業研究月間報告
機能材料工学科	電気磁気学 I (材料) 機能材料「超伝導工学」 電気磁気学 IA
電気工学科	電気「電気回路 I」 高校数学の基礎事項の復習
情報工学科	情報「論理回路2003」
情報通信工学科	情報通信「計算機工学Ⅱ」 情報通信工学科「電磁気学・演習Ⅰ」 情報通信「計算機工学Ⅰ」 情報通信「計算機工学Ⅱ2003」 情報通信工学科「電磁気学・演習Ⅱ」 情報通信「計算機工学Ⅰ2004」
情報システム	情報システム「計算機ハードウェアⅡ」 情報システム「大学初年度数学学習講座」 情報システム「高校数学復習講座」 情報システム「計算機ハードウェア2004」
システムマネジメント学科	システムマネジメント「オペレーションズ・リサーチ入門」
社会環境学科	社会環境「エネルギー経済論Ⅰ」 社会環境「エネルギー政策論Ⅰ」 社会環境「エネルギー経済論Ⅱ」 社会環境「エネルギー経済論Ⅰ2003」 社会環境「エネルギー政策論Ⅱ2003」 社会環境「エネルギー政策論Ⅰ-2004」 社会環境「エネルギー経済論Ⅱ-2004」
情報処理センター	Internet Navigware用の教材作成方法
合 計	42コンテンツ

資料47 プロジェクト一覧

平成14年度プロジェクト研究員

テーマ	研究代表者	
インターネットを利用した学習システムの構築	梶原 寿了	電気工学科 教授
講義補助のためのデジタルコンテンツの開発	前田 洋	情報通信工学科 助教授
WEBシステムによる教育改善	徐 海燕	情報工学科 教授
マルチメディア検定のためのe-Learning教材の開発	西村 靖司	短大・電子情報システム学科 助教授
動的ネットワーク教材の開発	松尾 敬二	電気工学科 教授
e-Learningコンテンツ作成における標準化の確立	倪 宝栄	機能材料工学科 教授
インターネットを利用した数学自習教材の開発	池田 和生	電気工学科 助教授
ITを利用して教師の授業活動と教育コンテンツ製作を統合的に支援するシステムの研究開発	曾 超	短大・電子情報システム学科 助教授
学生学業評価プログラムの改善	河村 壽三	知能機械工学科 教授

平成15年度プロジェクト研究員

テーマ名	研究代表者	
中級及び上級バイオ技術認定試験対策用オンラインコンテンツの構築	天田 啓	機能材料工学科 助教授
インターネットを利用した学習システムの構築	梶原 寿了	電気工学科 教授
動的ネットワーク教材の開発	松尾 敬二	電気工学科 教授
WEBシステムによる教育改善	徐 海燕	情報工学科 教授
学習者の行動パターンを利用する講義支援システムの研究	若原 俊彦	情報通信工学科 教授
オンデマンド教材の作成と理解度確認テストページ作成支援ツールの開発	前田 洋	情報通信工学科 助教授
在庫管理手法のe-Learning教材の開発	宋 宇	システムマネジメント工学科 助教授
学生の予習と復習のための講義ストーリーミング映像コンテンツ制作	曾 超	短大・電子情報システム学科 助教授
InternetNavigware用コンテンツ作成サポートツールの開発およびその共通サーバの構築	倪 宝栄	機能材料工学科 教授

平成16年度プロジェクト研究員

テーマ名	研究代表者	
中級及び上級バイオ技術認定試験対策用オンラインコンテンツの構築	天田 啓	機能材料工学科 助教授
InternetNavigwareによる学習専用のクライアント環境に関する研究開発	相良 哲生	情報工学科 講師
「科学技術英語の基礎」習得のための非同期方オンラインコンテンツの構築	岡裏 佳幸	情報通信工学科 講師
リアルタイムビデオ通信を実現するWWW会議システムに関する研究	移田 薫	情報通信工学科 講師
InternetNavigwareを用いた講義・演習補助用e-Learning教材の開発	山口 明宏	情報システム工学科 講師
生産管理工学用e-Learning教材の作成と運用	赤木 文男	システムマネジメント学科 教授
オペレーションズ・リサーチ関連のe-Learning教材の開発	宋 宇	システムマネジメント学科 助教授
3D-CG関連授業のための動画を活用したe-Learning教材の開発	平岡 茂夫	短大・OA情報システム学科 助教授
全学利用を前提としたリメディアル教育コンテンツの開発に関する研究	情報処理センター	情報処理センター

資料48 ファイアウォール導入後のセキュリティポリシーについて

ファイアウォール導入後のセキュリティポリシーについて(抜粋)

1. 電子メールについて

原則として、外部からの電子メール利用は、WebMail サービスのみとし、本学で受信するメールは、コンピュータウイルスを自動駆除する機構を経るものとする。

2. 学外からの接続について

悪意や被害を被る恐れがある接続は遮断する。また、Windows 等の共有サービスは、学外からの利用を禁止する。

3. 学内ネットワークからの制約事項について

- ・有害でない、一般的なアプリケーションに関しては特に制限しないものとする。
- ・有害な情報を公開しているサイトに関しては閲覧を禁止する場合がある。
- ・著作権侵害の恐れのある、ファイル交換系等のアプリケーションは、原則として利用を禁止する。

4. 研究室でのサーバ運用について

- ・外部からの直接の telnet, ftp, www 接続は行えない。外部からこれらを利用する場合は、登録申請を行い、登録許可されたサーバのみ利用可能とする。なお、telnet に関しては SSH 経由のみとする。
- ・電子メールサーバを立てる場合は、コンピュータウイルス自動駆除機能と連動する必要があるため指定するリレーサーバを経由して配送する設定が必要。

ファイアウォール導入後のネットワーク運用について(抜粋)

【利用者側】

1. 電子メールの利用について

- ・電子メールの運用においては、対外接続部分に InterScan VirusWall を設置し、電子メールに付帯する可能性のある、コンピュータウイルスについて自動削除機能を有する。
- ・学外からの POP3 による電子メール受信サービスは当面、登録許可されたサーバのみ受信可能とする。
- ・教員用 WebMail サービス以外からの、学外から電子メール送信は行えないものとする。
- ・学外からの電子メール利用については、WebMail サービスでの利用を推奨する。

2. コンピュータウイルスについて

- ・電子メールに付帯するコンピュータウイルスに関しては、前項でも記載されている通り、InterScan VirusWall にて自動削除機能を有する。ただし、利用者は各自アンチウイルスソフトウェアの導入・運用を行って頂く事を推奨する。

3. 学外からの telnet 接続について

- ・学外からの telnet 接続は、SSH 経由での利用のみとする。また、SSH 経由での接続可能

なホストに関しては、登録許可されたサーバのみ接続可能とする。

4. 学外からの ftp 接続について

- ・学外からの ftp 接続は、登録許可されたサーバのみ接続可能とする。

5. 学外からの Windows 共有サービスについて

- ・Microsoft Windows にて提供されている、共有サービス(ファイル共有、プリンタ 共有)については、学外からの利用を禁止する。

6. その他のネットワークアプリケーションについて

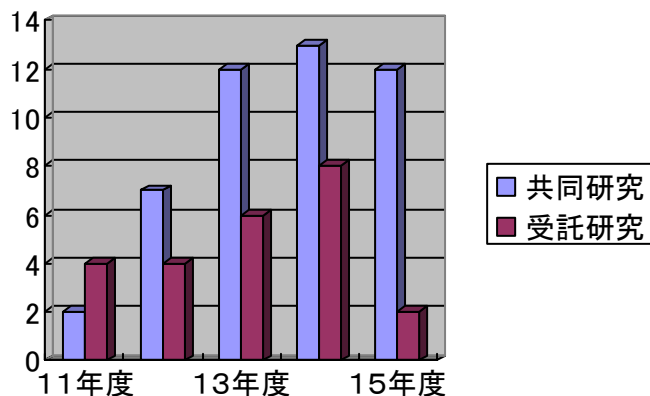
- ・有害でない、一般的なアプリケーションにおいて、学内ネットワークからの利用に際しては特に制限をしない。
- ・双方性のあるネットワークアプリケーションおよびサービスについては、必要性を検討し、有用かつ有害でなければ適時ファイアウォールを通過させる。
- ・有害な情報を公開しているサイトに関しては閲覧を禁止する場合がある。
- ・著作権侵害の恐れのある、ファイル交換系等のアプリケーションは、原則として利用を禁止する。

【サーバ管理側】

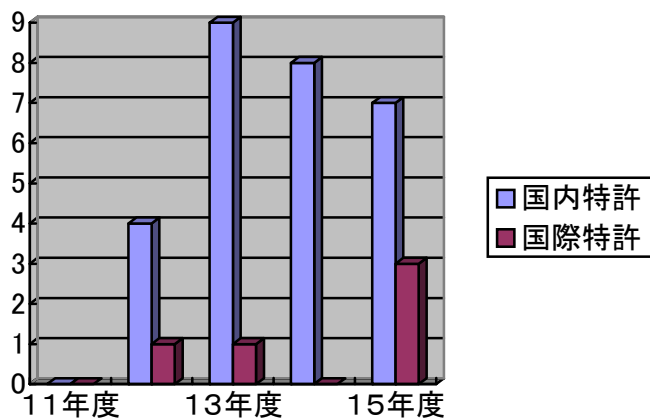
- ・外部ネットワークからのサーバへの直接 telnet 及び FTP, WWW 接続は行えないものとする。
- ・SSH, HTTP, HTTPS, FTP, SMTP(電子メール), DNS サーバにおいて、研究室でサーバを運用する場合は、研究室担当教員が責任を持って、サーバの管理・監視、セキュリティ対策を実施頂く。
- ・「電子メールサーバ運用」について、別途以下の通り定める。

電子メールに付帯するコンピュータウイルスに対して、InterScan VirusWall での自動削除機能と連動するため、各電子メールサーバは、InterScan Virus Wall 用リレーサーバを経由して、電子メールの配送を行うよう設定を行う必要がある。原則として、各電子メールサーバは、InterScan VirusWall 用リレーサーバ経由での電子メール配送を行うものとする。

資料 49 共同研究および受託研究の件数



資料 50 特許出願件数



資料 51 製品化に至った産学連携の成功例

製品名	共同研究企業名	本学開発担当者	製品化年度
(1) 打球計測器「ピタゴラス」	ミズノ (株)	溝田教授	14年度
(2) 磁力支持天秤装置	九州計測器 (株)	河村、溝田教授	14年度
(3) 窯元君	企業組合 DFC	大田、北山教授	15年度
(4) とうふすてーしょん	(有) 田中珍味	森山、根本氏	16年度

(磁力支持天秤装置については、平成 14 年に「君は UFO を見たか？」で科学技術振興事業団体理事長賞を受賞した。)

資料 52 産学連携関連イベントの開催、展示および講演

日時	産学連携イベント名および内容等	開催場所
平成15年6月 20日	FIT テクノクラブ第8回技術交流会 1部「産学連携の入門編」 2部「研究シーズ紹介と企業事例紹介」 テーマ：環境 参加者：35名	本学（α棟4F）
9月19日	産業財産権セミナー&FIT テクノクラブ第9回技術交流会 1部「産業財産権についての基礎知識」 2部「研究シーズ紹介と企業事例紹介」 テーマ：加工 参加者：123名	本学（本部棟9F ホール）
9月29日	第10回福岡産学ジョイントプラザ友の会にて講演 演題：“産学連携は宝の山”から“死の谷を乗り越えて”まで 講演者：内田教授	福岡商工会議所
10月16日	ベンチャープラザ九州2003での展示 展示品：（有）田中珍味と共同開発した「家庭用豆腐製造機」	福岡市
10月20日	九州地区企業ビジネス交流会へ展示 展示品：共同研究・受託研究、研究者シーズおよび特許出願紹介、	シーホークホテル
10月27日～ 30日	第7回磁力支持技術国際シンポジウムへ展示 展示品：九州計測器（株）と共同開発した「磁力支持天秤装置」 の展示	福岡市
11月12日～ 14日	九州・国際テクノフェア IT2003 へ出展 展示品：「家庭用豆腐製造機」、「磁力支持天秤装置」、共同研究・ 受託研究、 研究者シーズおよび特許出願紹介	西日本総合展示 場（北九州市）
12月2日	福岡産学ジョイントプラザ交流セミナーで講演 題目：教育現場におけるデジタルコンテンツの事例紹介 後援者：西村助教授	エルガーラホー ル
平成16年2月 20日	産学連携交流フェア2004開催 内容：講演会、パネルディスカッション、研究者シーズ紹介 展示：ブース展示（企業、公的機関、福岡工業大学） 主催：福岡工業大学、財団法人九州産業技術センター、 福岡県中小企業団体中央会、福岡県中小企業化同友会 後援：九州経済産業局、福岡県、福岡市、福岡商工会議所、 （財）福岡県産業・科学技術振興財団、産学連携学会、日刊工業 新聞社 参加者：約650名	本学（FITアリー ナ）

資料 53 交流協定校との交流活動

年度	H13	H14	H15
南京理工大学 (中国)	訪問：1人 (集中講義) 来訪：2名 (三大学交流協議会)	訪問：1人 (集中講義) 訪問：2名 (夏期交換プログラム) 来訪：4名 (夏期交換プログラム)	訪問：1人(集中講義) 訪問：2人 (創立記念式典) 来訪：8名 (大学運営・教育・研究視察)
慶星大学校 (韓国)	来訪：4人 (表敬訪問)	—	—
亞洲大学校 (韓国)	来訪：2名 (三大学交流協議会)	来訪：2名 (夏期交換プログラム) 訪問：5名 (夏期交換プログラム) 訪問：1名 (大学院留学協議)	来訪：17名 (大学院教育システム調査)
バララット大学 (豪州)	訪問：17人 (英語研修)	訪問：17人 (英語研修)	来訪：8名 (日本語研修) —
オレゴン州立大学 工学部 (米国)	—	—	オレゴン州立大学 1人(学術交流)
永進専門大学 (韓国)	—	—	—
呉鳳工商 専科学校 (台湾)	—	—	来訪：5名 (大学運営・教育・研究視察)
フットヒルレッジ (米国)	訪問：1名 (表敬訪問)	—	—
訪問(人)	19	26	4
来訪(人)	8	6	38

資料 54 交流協定校以外との交流活動

年度	H13	H14	H15
来訪	中国 山東科学技術大学 3人（国際交流協議）	米国 オレゴン州立大学 1人（調印式）	中国 桂林工学院 13人 （大学運営・教育・研究 視察） 韓国 巨済大学 77人 （大学運営・教育・研究 視察）
訪問	米国 オレゴン州立大学 2人 （交流協定事前協議） 中国 山東科学技術大学 3人（国際交流協議）	—	米国 カリフォルニア州立 大学ハイワード校 1人（語学研修事前協議）
学術講演	0件	0件	0件

資料 55 英語研修

年度	H13	H14	H15
実施回	第 11 回	第 12 回	—
国名	オーストラリア	オーストラリア	—
州名	ヴィクトリア州	ヴィクトリア州	—
実施校	バララット	バララット	—
期間	9/1～9/23	8/31～9/23	—
参加学生数	17人	17人	
内訳			
大学院学生	2人	0人	—
大学生	11人	13人	
短大学生	4人	4人	

注：平成 15 年度は SARS 発生のため実施を見合わせた。

資料 56 交流協定校

本学園	国名	交流協定校	所在地	協定年月日
大学	韓国	亞洲大学校	京畿道水原市	1990年9月10日 2001年9月11日 (三大学交流協定)
	韓国	慶星大学校	慶尚南道釜山市	1981年12月5日
	中国	大連理工大学	遼寧省大連市	1988年2月9日
	中国	南京理工大学	江蘇省南京市	1993年12月25日 2001年9月11日 (三大学交流協定)
	米国	フットヒルカレッジ	カリフォルニア州	1992年4月30日
	豪州	バララット大学	ヴィクトリア州	2001年12月20日
	米国	オレゴン州立大学 (工学部)	オレゴン州	2002年4月22日
短期大学	韓国	永進専門大学	慶尚北道大邱市	1994年2月28日
	台湾	呉鳳工商専科学校	台湾省嘉義県	1988年5月26日
	台湾	景文工商専科学校	台湾省台北県	1990年11月20日
	米国	フットヒルカレッジ	カリフォルニア州	1990年8月21日